構造設計特記仕様

※修正箇所は下線を引くこと
適用は ■ 印を記入する。

1．建築物の構造内容

（1）建築場所　北海道北見市北４条西１丁目21番
　　北見市北３条西１丁目20番
（2）工事種別　■ 新築　□ 増築　□ 増改築　□ 改築
（3）構造種別　□ 木造（W）　□ 補強コンクリートブロック造（CB）
■ 鉄骨造（S）　□ 鉄筋コンクリート造（RC）
□ 壁式鉄筋コンクリート造（WRC）　□ 鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC）
□ 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造（WPRC）
□ プレキャスト鉄筋コンクリート造（PRC）
（4）階数　地下　0階　地上　1階　塔屋　0階
（5）主要用途　自動車車庫
（6）屋上付属物　□ 高架水槽　－kN　□ キュービクル　－kN
□ 広告塔　□ 煙突
（7）特別な荷重　□ エレベータ　人乗
□ リフト　－kN　□ ホイスト　－kN
□ 倉庫積載床用　－N/㎡　□ 受水槽　－kN
（8）付帯工事　□ 門塀　□ 擁壁　□ 駐輪場　□ 機械式駐車場
（9）増築計画　□ 有（　　）　■ 無
(10) 構造計算ルートX方向ルート　3　Y方向ルート　3

2．使用構造材料一覧表

（1）コンクリート

適用箇所	種　類	設計基準強度 Fc=N/mm2	スランプ cm	備　考
捨てコンクリート	■普通	１８	１５	
土間コンクリート	■普通	２１	１５	
合成スラブデッキコンクリート	■普通	２１	１５	膨張材混入
礎柱・基礎・基礎梁壁	■普通	２１	１８	
	□普通　□軽量			
押えコンクリート	□普通　□軽量	－	－	
細骨材の種類		■ 砂　□ 山砂　□ 人工　□		
粗骨材の種類		■ 砂利　■ 砕石　□ 人工　□		
水の区分		■ 水道水　■ 地下水　□ 工業用水　□		
混和材料の種類		■ 高性能AE減水剤　■ 膨張材（合成ｽﾗﾌﾞｺﾝｸﾘｰﾄのみ）		
呼び強度を保証する材齢		■ 28日　□ 56日　□		

（2）コンクリートブロック（CB）
□ A種　□ B種　□ C種　厚 □ 100　□ 120　□ 150　□ 190
（3）鉄　筋

	種　類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	■ SD295	D16以下	礎柱・基礎・基礎梁合成スラブ	■ 重ね継手 D16以下 ■ ガス圧接継手 D19以上
	□			
	■ SD345	D19	基礎・礎柱・基礎梁	
	□ SD390	D29以上		
丸　鋼	□ SR235			
溶接金網	□			

（4）鉄　骨

種　類	使用箇所	現場溶接	備　考
■ SS400 □SM400 □ SN400A、B、C	大梁・小梁・間柱 転落防止柵	□ 有 ■ 無	
□ STKR400 □ STKR490		□ 有 □ 無	
■ TSC295 ■ BCR295	柱	□ 有 ■ 無	
■ SM490A ■ SN490B ■ SN490C	大梁・ダイアフラム ベースプレート	□ 有 ■ 無	
□ TMCP325C		□ 有 □ 無	

○使用箇所の詳細については別途図示とする。

（5）ボルト
■ 高力ボルト
■ F8T(溶融亜鉛めっき)　□ S10T
■ 認定品（■M16、■M20、■M22、□M24）
■ 中ボルト　高力ボルトすべり係数試験　□ 要　■ 否
高力ボルト導入張力確認試験　□ 要　■ 否
■ アンカーボルト　アンカーボルトは　「柱脚詳細図」　参照
■ SS400　M　L＝　mm　ナット　（□ シングル、■ ダブル）
□ ABR400　ナット　（□ シングル、□ ダブル）
■ ABR490　ナット　（□ シングル、■ ダブル）
□ 頭付スタッドボルト
φ＝　L＝　mm　使用箇所（□柱　□大梁　□小梁）
φ＝　L＝　mm　使用箇所（□柱　□大梁　□小梁）
（6）屋根、床、壁、手摺
□ 押出成形セメント板　壁厚　mm　□スライド構法 □ボルト止め構法 □ロッキング構法
□ 押出成形セメント版　壁厚　mm　□スライド構法 □ボルト止め構法 □ロッキング構法
□ 折　版　H＝　mm　厚　mm
■ デッキプレート　型式　QL-99-50（同等品以上とする）　厚　1．2mm
□ キーストーンプレート　型式　－　厚　mm
■ 鋼板パネル
□ メッシュフェンス

3．地　盤

（1）地盤調査資料と調査計画
■ 有　（■敷地内　□ 近隣）　□ 無　（調査計画　□ 有　□ 無）

調　査　項　目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング調査	○		静的貫入試験			標準貫入試験	○	
水平地盤反力係数の測定			土質試験	○		物理探査		
試験堀（支持層の確認）			平板載荷試験			液状化判定	○	
ｽｳｪｰﾃﾞﾝ式ｻｳﾝﾃﾞｨﾝｸﾞ			現場透水試験			ＰＳ検層		

注）上記表中の資料が有るもの、調査計画が有るものに○を記入する。
（2）ボーリング標準貫入値、土質構成（基礎・杭の位置を明記すること）

深度	土　質	N値	標準貫入試験 10 20 30 40 50 60	○備考
2				
1				
0				
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7			S-06図参照	
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				

注）地盤調査及び試験杭の結果により、杭長さ、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

4．地業工事

（1）直接基礎　□ベタ基礎　□布基礎　■独立基礎　試験堀 □有 □無
支持層　砂礫層　長期許容支持力度(基礎下端)　150 kN/㎡（一部ラップルコンクリート置換）
（2）杭基礎　支持層　弱風化砂岩層

杭　種	材　料	施工方法	備　考
□RC　□ CPRC □PHC □H鋼 □鋼管　□摩擦杭 □SC杭 □節付PHC	CPRC（□Ⅰ種、□Ⅱ種、□Ⅲ種 □Ⅳ種、□Ⅴ種） PHC(□A種、□B種、□C種) 鋼材 □SS400　□STK490 □SKK490	□打込み □ 認定番号： 認定番号：	認定工法
□場所打ち コンクリート杭	コンクリートFc=　N/mm2 スランプ　cm セメント量　kg/m3 鉄　筋　主筋　SD HOOP　SD	□オールケーシング □拡底杭 □リバースサーキュレーション □アースドリル □ニアース □BH □深礎（□手堀　□機械堀）	認定 第　号 年　月　日

杭仕様　□ 施工計画書承認　□ 杭施工結果報告書
試験杭　(□ 有　□無)　（□ 打ち込み・□　載荷・□ 孔底測定）1本

杭径（mm）	設計支持力（kN）	杭の先端の深さ（m）	本数	特記事項
		杭伏図による		

5．鉄筋コンクリート工事　（施工方法等計画書）

（1）コンクリート
■ コンクリートはＪＩＳ認定工場の製品とし、施工に関しては標準図に記載されている事項を除きＪＡＳＳ5による。
■ 耐久設計基準強度　Ｆｄ □ 一般　□ 長期　□ 超長期　■ 短期
■ セメントは、ＪＩＳ Ｒ５２１０の普通ポルトランドセメントを標準とする。
■ 調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
■ 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
■ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（財）国土開発技術研究センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を１回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合、１日１回以上とし、１回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて３回行い、その平均値を試験値とする。
■ 構造体コンクリートについて現場の圧縮強度試験供試体（ＪＡＳＳ５Ｔ－６０３）は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごとととする。
また、打込み量が１５０m3を超える場合は１５０m3ごとまたは、その端数ごとに１回を標準とする。１回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた３台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、１回当り６本以上とし、そのうち４週用に３本を用いる。
■ ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さはコンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が２５℃未満の場合は１５０分以内、２５℃以上の場合は１２０分以内とする。
（2）鉄筋
■ 鉄筋はＪＩＳ　Ｇ３１１２の規格品を標準とする。施工は、標準図に記載されている事項を除き、ＪＡＳＳ5による。
□ 高強度せん断補強筋は、ＪＩＳ　Ｇ３１３７に規定されるＤ種１号適合品とする。
■ 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）（２）」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）（２）」による。
■ Ｄ１９未満は、すべて重ね継手とする。継手（Ｄ１９以上）をガス圧接とする場合は、日本鉄筋継手協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
■ ガス圧接部の抜き取り検査は、１組の作業班が一日に施工した圧接箇所を１ロットとし、試験片の箇所数は以下とする。
□UT試験（1ロット(200を超える場合は200ごと)に対し30箇所）
■引張試験（１ロットに対し3本）
■ 柱の帯筋（ＨＯＯＰ）の加工方法は、■Ｈ型（タガ型）　□Ｗ型（溶接型）□Ｓ型（スパイラル型）とする。
□ コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第４条の試験機関で行うこと。
試験機関名－工事監理者が指定する試験機関　（都知事登録　　号）
代行業者名－工事監理者が指定する代行業者
代行業者とは、試験、検査に伴う業務を代行する者をいう。
（3）型　枠
■ 材料　合板厚　１２mmを標準とする。　■ 施工　ＪＡＳＳ5による。
■ 型枠存置期間

種類 / 部位		せき板 基礎、梁側、柱、壁	せき板 スラブ下、梁下		支柱 スラブ下	支柱 梁下	
セメントの種類		早強ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ	普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ 高炉ｾﾒﾝﾄA種 ｼﾘｶｾﾒﾝﾄA種	早強ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ	普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ 高炉ｾﾒﾝﾄA種 ｼﾘｶｾﾒﾝﾄA種	早強ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ	普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ 高炉ｾﾒﾝﾄA種 ｼﾘｶｾﾒﾝﾄA種
コンクリートの材令（日） 存置期間の平均気温	15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
	5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28
	5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度		5．0N/mm2	設計基準強度の50％		設計基準強度の85％		設計基準強度の100％	

注）１　片持ち梁、庇、スパン９．０m以上の梁下は、工事監理者の指示による。
注）２　大梁の支柱の盛りかえは行わない。また、その他の梁の場合も原則として行わない。
注）３　支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注）４　盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注）５　支柱の盛りかえは、小梁が終わってから、スラブを行う。
一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
注）６　上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

6．鉄骨工事　（施工方法等計画書）

（1）鉄骨工事は指示のない限り下記による
■ 日本建築学会「ＪＡＳＳ６」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
■ 社）日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
■ 鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」
（2）工事監理者の承認を必要とするもの
■ 製作工場　■ 製作要領書　■ 工作図　■ 施工計画書
■ 認定または登録工場　（■大臣認定　登録工場（ □ S □ H ■ M □ R □ J ）グレード以上 ）
■ 材料規格証明書または試験成績書
■ 鋼材　■ 高力ボルト　□ 特殊ボルト　□ 頭付スタッド
■ 社内検査表
（3）工事監理者が行う検査項目
（■印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること）
□ 現寸検査　□ 組立・開先検査　■ 製品検査　■ 建方検査
（4）接合部の溶接は下記によること
□ 鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱（建築構造設計指針第１２章）
■ 日本建築学会「溶接工作基準、同解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」
■ 日本建築学会「鉄骨工事技術指針　工事現場施工編」
（5）溶接収容及び管理
■ 使用する溶接ワイヤー、入熱量及びパス間温度の仕様については鉄建協会または全構協の仕様で、専任の溶接施工管理技術者により管理を行うこと。
■ 本工事で代替タブを使用する場合は、代替タブ溶接技術者技量検定付加試験を □ 行う■ 行わない
（6）接合部の検査
■ 溶接部の検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）

検査箇所	検査方法	検査率又は検数 社内	検査率又は検数 第三者	検査率又は検数 工事監理者	備　考
■完全溶込み溶接部（突合せ溶接）	外観検査（※1）	１００％	※2	報告承認	※1 平成12年建設省告示第1464号第二号による（目視及び計測）
	超音波探傷試験	１００％	※2	報告承認	
	内質検査（注）				
	マクロ試験・その他	個	個	個	※2 ＡＯＱＬ　４．0％ 検査水準　第六水準（1ロット220箇所から20箇所抜き取る。）
□	外観検査（※1）				
第三者検査機関名未定　（都知事登録　　号）					

第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。
（注）東京都の要綱に基づき、必要となる建築物の場合に実施する。

１）工場溶接部の第三者による超音波探傷試験は、監理者に確認の上決定すること。
２）現場溶接部については原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を１００％行うこと。
３）重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築主事等に報告すること。
□ 内質検査　□ 硬さ試験　□ 示温塗料塗布
■ 高力ボルトは「ＪＩＳ　Ｂ１１８６の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを座金外径２倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した、赤さび状態であること。ただし、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あらさが５０S以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。メッキ仕上げの場合は、リン酸処理とする。
■ 高力ボルトは「溶融亜鉛めっき高力ボルト」とする。摩擦面の処理はめっき後りん酸処理を施す。
■ 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは一次、二次締めとする。
締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行われているか検査する。
（7）防錆塗装
□ 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。
錆止めのペイントは、　ＪＩＳ　Ｋ５６７４、を使用して、工場での2回塗りを標準とする。
□ 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調査は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し２回塗りとする。
■ 溶融亜鉛めっき　JIS　H8641　2種　HDZ55(軽量形鋼・薄板　HDZ35以上)

7．設備関係

■ 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。設ける場合は設計者の承認を得ること。
■ 設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
■ 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合は、スラブ厚さの１／３以下とし管の間隔を管径の３倍以上かつ５ｃｍ以上を原則とする。
令第129条の2の3の事項　※設計が該当する場合には、□にチェックを記入する。
建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして以下の構造方法による
■ 建築設備（昇降機を除く。）、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとすること。
□ 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。
□ 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。
□ 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。
建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、下記とする
■ 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
■ 建築物の部分を貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
■ 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
■ 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
■ 法第20条第一号から三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものは、建設省告示第1388号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとすること。

8．その他

■ 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
■ 各試験の供試体は公的試験機関または代行業者にて試験を行い工事監理者に報告すること。
■ 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

株式会社エストルクトゥーラー級建築士事務所
一級建築士登録番号 307454 号
構造設計一級建築士登録番号 7424 号 河合九州雄

事業名	北見市中央大通沿道地区第一種市街地再開発事業	コムズ・司・清和共同企業体 代表者（株）コムズワーク　一級建築士事務所登録（石）4638号	管理建築士　竹ノ内　久 一級建築士登録　第200222号	担当	検図	担当建築士	縮尺 用紙サイズ A-1 N.S / A-2 / A-3 N.S	工事名 (仮称)北見市中央大通沿道地区第一種市街地再開発事業 立体駐車場棟	図面番号
			意匠図担当建築士　アルファコート株式会社　舘本　和法 一級建築士事務所登録 第(石)5189号 一級建築士登録 第339203号			設計年月日 R8.02		図面名 構造設計特記仕様	S － 01

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)

※修正箇所は下線を引くこと

1．一般事項

(1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

(2) 記号

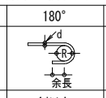
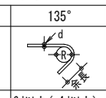
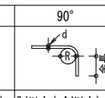
d…異形棒鋼の呼び名に用いた数値　丸鋼では径　D…部材の成　R…直径

@…間隔　r…半径　CL…中心線　Lo…部材間の内法距離　ho…部材間の内法高さ

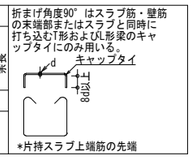
ST…あばら筋　HOOP…帯筋　S.HOOP…補強帯筋　φ…直径又は丸鋼

2．鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°
図			
鉄筋の余長	4d以上	6d以上(x4d以上)	8d以上(x4d以上)

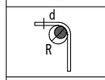
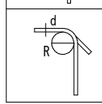
折まげ角度90°はスラブ筋・壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込む丁形および凡形梁のキャップタイにのみ用いる。



*片持スラブ上端筋の先端

折曲げ内法寸法Rは、SR235は3d以上、SD295A、SD295B、SD345のD16以下は、3d以上、D19以上は4d以上

(2) 鉄筋中間部の折曲げ形状　鉄筋の折曲げ角度90°以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内のり寸法(R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235、SD295A SD295B、SD345	16φ D16 以下	3d以上
			19φ D19 以上	4d以上
	上記以外の鉄筋	SR235、SD295A SD295B、SD345	16φ D16 以下	
			19φ～25φ D19～D25	6d以上
			28φ～32φ D29～D38	8d以上

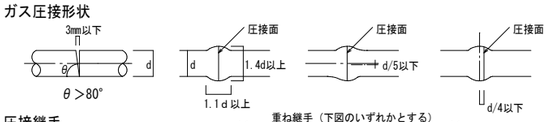
(3) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm2)	定着の長さ 一般 (L2)	定着の長さ 下端筋 (L3) 小梁	定着の長さ 下端筋 (L3) スラブ	特別の定着及び重ね継手の長さ (L1)
SR235	21～36	35d フックつき	25d フックつき	150mmフックつき	35d フックつき
	18以下	45d フックつき			45d フックつき
SD295A SD295B SD345	21～36	35d または 25d フックつき	25d または 15d フックつき	10d かつ 150mm以上	40d または 30d フックつき
	18以下	40d または 30d フックつき			45d または 35d フックつき

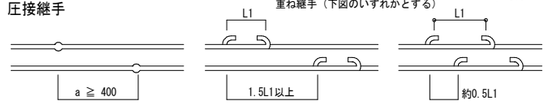
継　手

1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
4. D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
5. 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない

ガス圧接形状



圧接継手

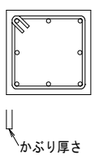


(4) かぶり厚さ　(単位：mm)

ひびわれ誘発目地部など鉄筋のかぶり、厚さが部分的に減少する箇所についても最小かぶり厚さを確保する。

部位			設計かぶり厚さ (mm)	最少かぶり厚さ (mm)
土に接しない部分	屋根・床	屋内	30	20
	非耐力壁	屋外	40	30(20)
	柱 はり 耐力壁	屋内	40	30
		屋外	50	40(30)
	擁壁		50	40
土に接する部分	柱・はり・床・耐力壁		50	40 (1)
	基礎・擁壁		70	60 (1)

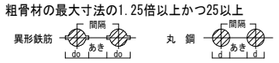
(1)軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。
(2)（ ）内は仕上げがある場合。
(3)土に接する部分のかぶりは増加する厚さを打ち増しとする。



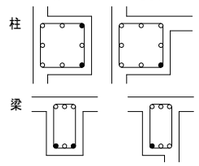
(5) 鉄筋のあき

丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上

粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25以上



図の ●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要



(6) 鉄筋のフック　(a～fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)

a.丸鋼　b.あばら筋、帯筋　c.煙突の鉄筋

d.柱、梁（基礎梁は除く）の出すみ部分の鉄筋（右図参照）

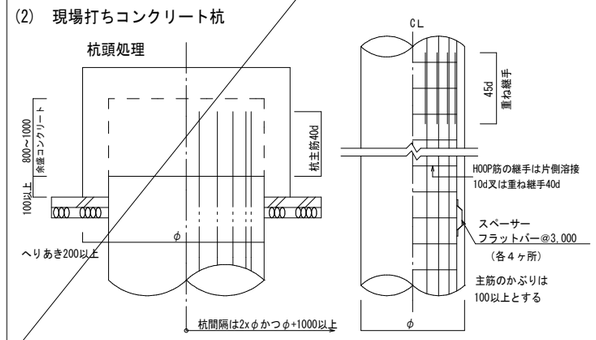
e.単純梁の下端筋

f.その他、本配筋標準に記載する箇所

3．杭　(地震力等の水平力を考慮する必要のある場合は、別途検討すること。)

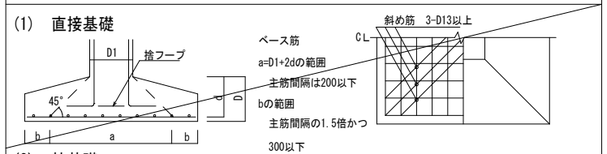
(1) PRC杭、又はPHC杭（S-**による）

(2) 現場打ちコンクリート杭

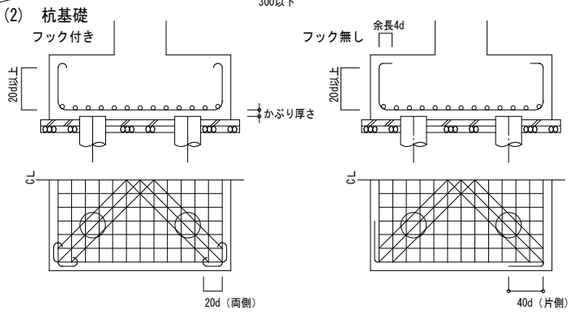


4．基　礎　(S-**による)

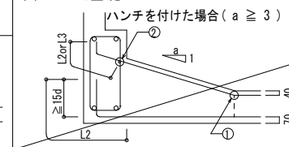
(1) 直接基礎



(2) 杭基礎

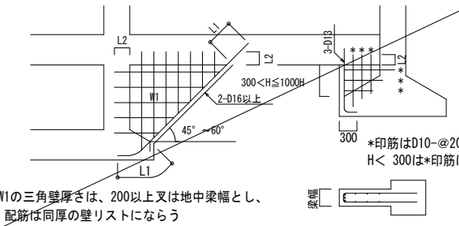


(3) べた基礎



1. 耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう
但し上筋と下筋を読みかえる
2. １の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
3. ２の鉄筋はD13以上
4. 埋戻し土のある場合は４０を７０とする

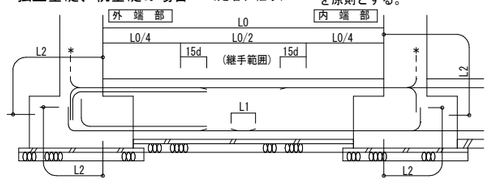
(4) 基礎接合部の補強



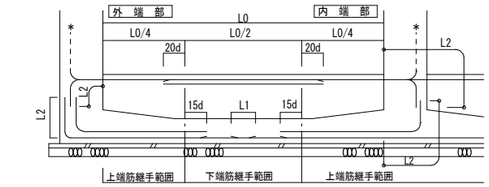
W1の三角壁厚さは、200以上又は地中梁幅とし、配筋は同厚の壁リストにならう

5．地中梁

(1) 独立基礎、杭基礎の場合　(定着、継手)　*折り曲げ起点は3/4Dを超えることを原則とする。



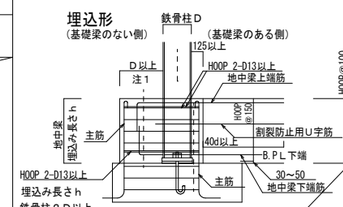
(2) 布基礎、べた基礎の場合　(定着、継手)　*上端主筋の定着は、やむを得ない場合、上向きとすることができる



(3) 小規模鉄骨造の柱脚固定の配筋

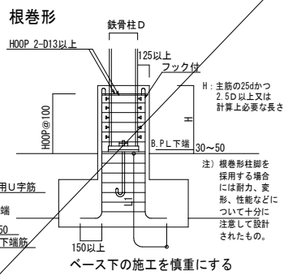
地中梁の主筋と頭付スタッドによる、おさまりに注意する。

埋込形（基礎梁のない側）



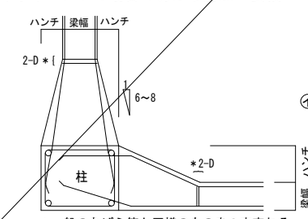
（注１　計算によらない場合である）

根巻形



ベース下の施工を慎重にする

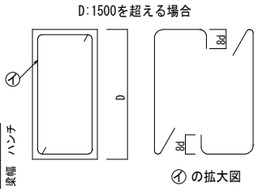
(4)水平ハンチの場合のあばら筋加工要領



＊一般のあばら筋と同様のものを２本束ねる

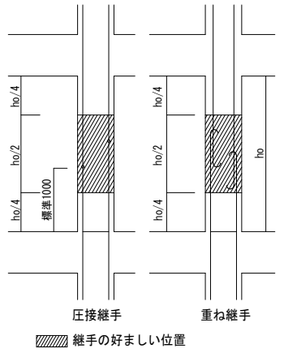
(5)せいの高い梁のあばら筋加工要領図

D:1500を超える場合



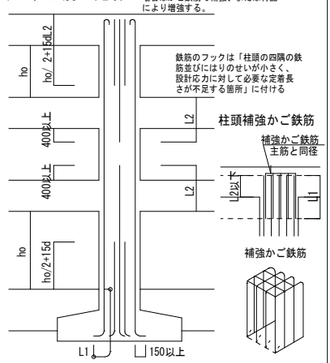
6．柱

(1) 柱主筋の継手

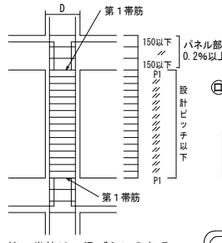


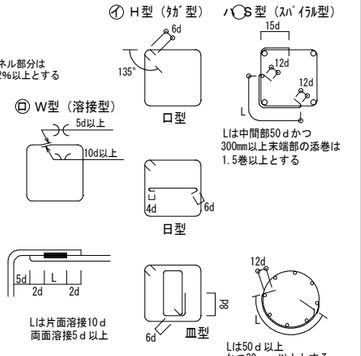
(2) 柱主筋の定着

柱、梁の定着L2以上が確保されない場合はかご鉄筋で補強、または特記により増強する。



(3) 帯　筋





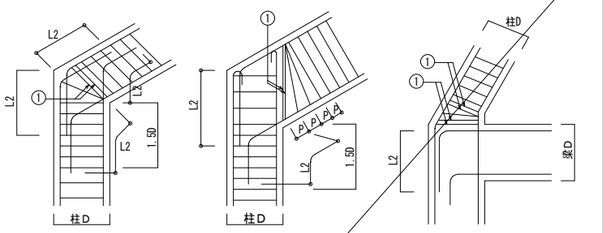
注１．第１帯筋は、梁づらに入れる

注２．W型で現場溶接をする場合は主筋の位置をさける

注３．フックおよび継手の位置は、交互とする

(4) 斜め柱・斜め梁

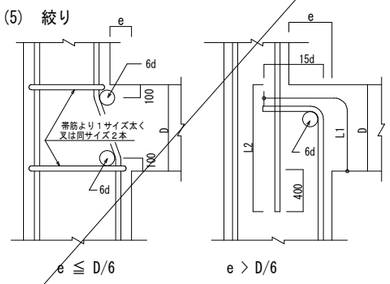
○柱幅と斜材（柱又は梁）幅が同一　○柱幅と斜材幅が異なる　○柱脚で斜材となる



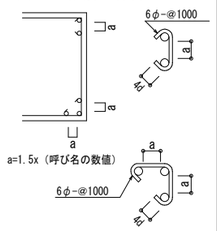
注１．1.5Dの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、又はダブル巻きとし@100以下とする

注２．◯の鉄筋は2-D13かつ、２本の一段太い鉄筋とする

(5) 絞り



(6) 二段筋の保持



株式会社エストルクトゥーラ一級建築士事務所
一級建築士登録番号 307454 号
構造設計一級建築士登録番号 7424 号 河合九州雄

事業名	北見市中央大通沿道地区第一種市街地再開発事業	コムズ・司・清和共同企業体 代表者（株）コムズワーク　一級建築士事務所登録（石）4638号	管理建築士 竹ノ内 久 一級建築士登録 第200222号	担当	検図	担当建築士	縮尺 A-1 N.S / A-2 / A-3 N.S	工事名 (仮称)北見市中央通沿道地区第一種市街地再開発事業 立体駐車場棟	図面番号
			意匠図担当建築士 アルファコート株式会社 舘本 和法 一級建築士事務所登録 第(石)5189号 一級建築士登録 第339203号			設計年月日 R8.02	用紙サイズ	図面名 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）	S － 02

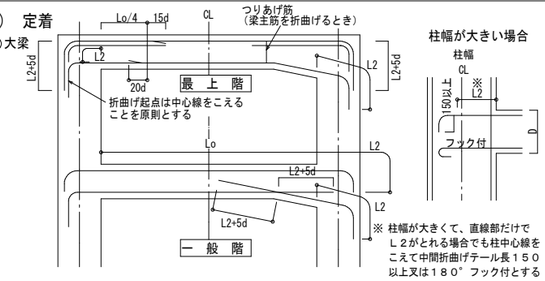
鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)

※修正箇所は下線を引くこと
L＝本構造配筋標準図(1)の2-(3)による。

7．大梁、小梁、片持梁

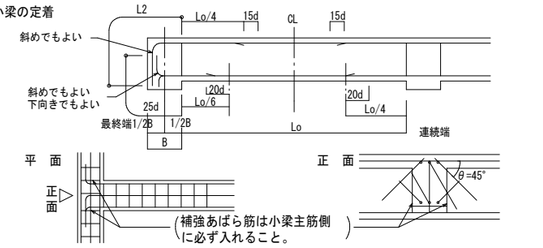
(1) 定着

ⓐ大梁

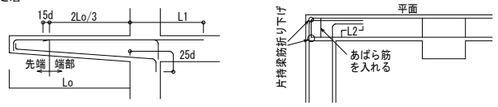


※ 柱幅が大きくて、直線部だけでＬ2がとれる場合でも柱中心線をこえて中間折曲げテール長１５０以上又は１８０°フック付とする

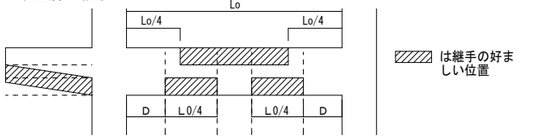
ⓑ小梁の定着



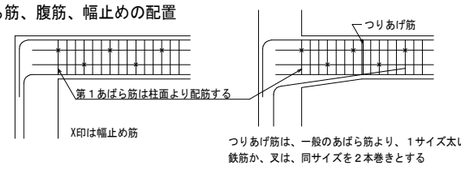
ⓒ片持梁の定着



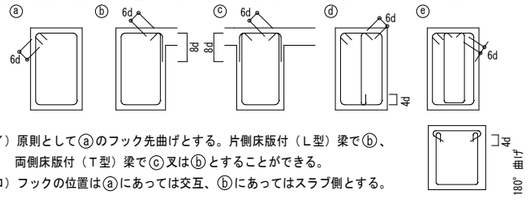
(2) 大梁主筋の継手



(3) あばら筋、腹筋、幅止めの配置



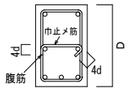
(4) あばら筋の型 （注 床版がない場合は135°以上のフックとする。）



（イ）原則としてⓐのフック先曲げとする。片側床版付（Ｌ型）梁でⓑ、両側床版付（Ｔ型）梁でⓒ又はⓑとすることができる。
（ロ）フックの位置はⓐにあっては交互、ⓑにあってはスラブ側とする。

(5) 幅止め筋の本数、加工

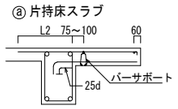
腹筋	D<600 不要		
	600 ≦ D<900	2-D10（9φ）	1 段
	900 ≦ D<1200	4-D10（9φ）	2 段
	1200 ≦ D	D10（9φ）@300以内	
幅止め筋	D10（9φ）@1000以内で割り付ける		



8．床 板

(1) 定着および継手

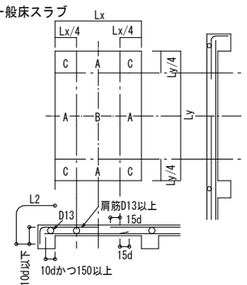
ⓐ片持床スラブ



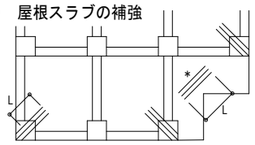
継手位置は原則として下表による。

		標準継手位置
上端部	短辺方向	B
	長辺方向	B
下端部	短辺・長辺方向	A C

ⓑ一般床スラブ



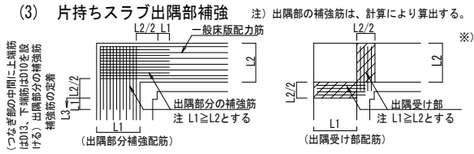
(2) 屋根スラブの補強



ⓐ補強筋は各3-D13又はスラブ主筋の同一径でL＝1,500とし、上端筋の下に配筋する
ⓑ※の箇所（入隅）は各階補強する

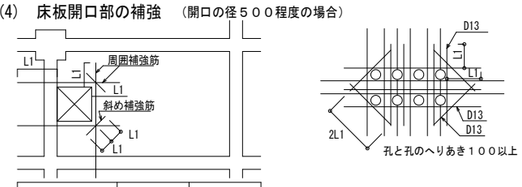
(3) 片持ちスラブ出隅部補強

注）出隅部の補強筋は、計算により算出する。



※）出隅受け部補強筋は、それぞれの方向に出隅補強筋として出隅部の同本数をハッチ部分に配置する。

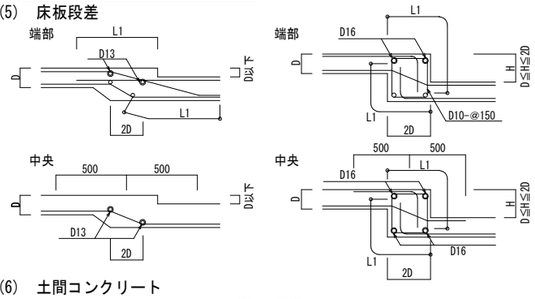
(4) 床板開口部の補強 （開口の径５００程度の場合）



床板厚さD	周 囲	斜 め
D ≦ 150	各2－D13	各1－D13
150 ＜ D ≦ 200	各2－D13	各2－D13
200 ＜ D ≦ 300	各2－D19	各2－D16

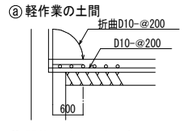
注）設備の小開口が連続してあく場合は縦、横、斜補強筋とは別に開口によって切られる鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する。

(5) 床板段差

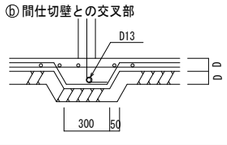


(6) 土間コンクリート

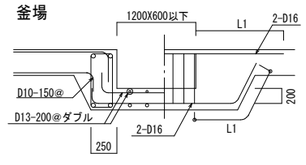
ⓐ軽作業の土間



ⓑ間仕切壁との交叉部



(7) 釜場



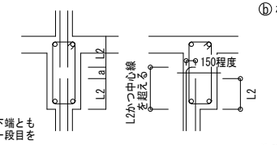
(8) 打継ぎ補強 （ダメ穴打継面について）

○ 設計配筋間隔の1/2ピッチ 長さ2xL1以上
○ 無筋部分Ｄ１０－@２００ 長さ８００以上

9．壁

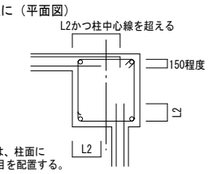
(1) 定着

ⓐ梁に



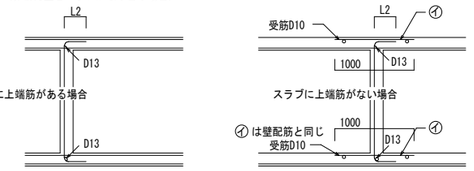
横筋の配置は上下端とも梁、又は床面に一段目を配置する。

ⓑ柱に（平面図）

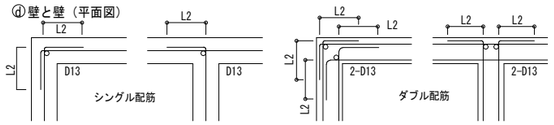


縦筋は、柱面に一本目を配置する。

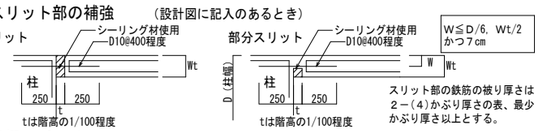
ⓒ床に （非耐力壁とスラブが取り合う場合）



ⓓ壁と壁（平面図）

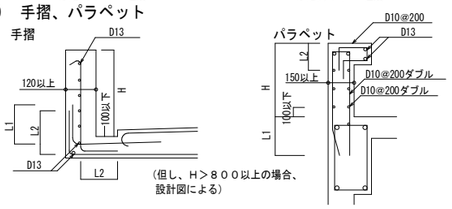


(2) スリット部の補強 （設計図に記入のあるとき）



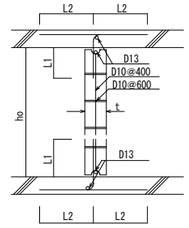
スリット部の鉄筋の被り厚さは２－(４)かぶり厚さの表、最少かぶり厚さ以上とする。

(3) 手摺、パラペット

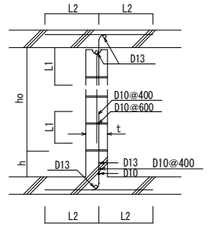


(4) コンクリートブロック帳壁

一般の場合



下部防水立上りのある場合

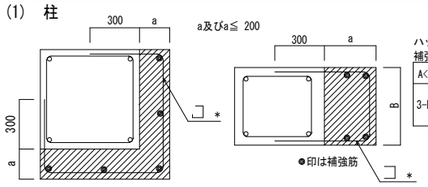


注）ho≦ 25tかつ3500以下とする。但し直交方向25t以内に壁、又は柱がある場合は除く
注）hはコンクリートブロック段数調整寸法とする。但し、200≦ h≦ 400
注）継手部は必ずモルタルを充填すること

１０．柱、梁増打コンクリート補強

（増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打ち合せのこと）

(1) 柱



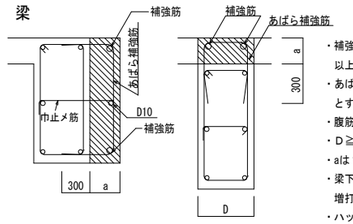
ハッチ部分は増打コンクリートを示す。

ハッチ部分の面積Acm2
補強タテ筋

A<500	500≦A<1000	1000≦A<1500
3-D16	4-D16	6-D16

*柱と同径、同ピッチとする。

(2) 梁

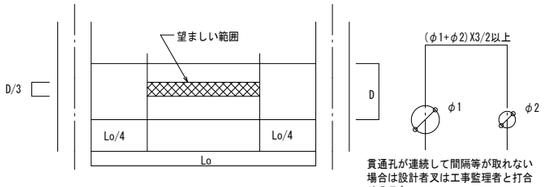


・補強筋は、梁主筋の１段落し径（Ｄ16以上）とする。
・あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする。
・腹筋Ｄ10ピッチは、梁の腹筋と合せる。
・Ｄ≧400の場合は補強筋を３本とする。
・aは１００～２００程度。
・梁下端増打コンクリートの場合も上端増打コンクリート補強と同様とする。
・ハッチ部分は増打コンクリートを示す。

１１．梁貫通孔補強

(1) 設置可能範囲

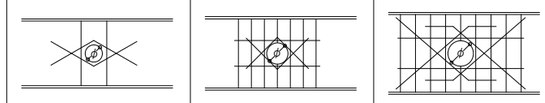
梁端部（スパンLo／１０以内かつ２Ｄ以内）は避ける



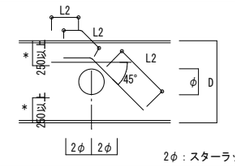
貫通孔が連続して間隔等が取れない場合は設計者又は工事監理者と打合せのこと。

(2) 鉄筋標準配筋 但し φ ≦ D／3とする

80 ≦ φ ≦ 100	100 ＜ φ ≦ 150	150 ＜ φ ≦ 250
折 筋 2-(2-D13)	折 筋 2-(2-D13)	斜 筋 4-(2-D13)
縦 筋 ST 2-D13	縦 筋 ST 2-D13-@50	縦 筋 ST 2-D13-@50
	横 筋 2-(2-D13)	横 筋 2-(2-D13)
	上下 縦筋 ST 2-D13-@50	上下 縦筋 ST 2-D13-@50



φ ＞ 250
孔補強の有効範囲と定着長さのとり方



2φ：スターラップ補強範囲

＊部分について計算で確認された場合は右記の位置、寸法によらなくて良い。

・梁幅が 400を超える場合は補強筋でＤ１３はＤ１６又は、２－Ｄ１３は３－Ｄ１３と、各々読みかえる

(3) 既製品 （使用する際には、設計者又は工事監理者と打合せのこと）

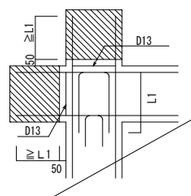
ウェブレン、ダイヤレン 等 日本建築センター評価取得品とする。
施工前に計算書を提出し、承認を得ること。

■ リング型 □ パイプ型 □ 金網型 □ プレート型

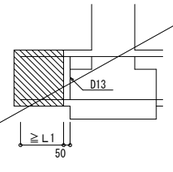
１２．増築予定

（将来増築予定のコンクリート増打ち部分は、増築時の鉄筋継手工法を考慮して措置する）

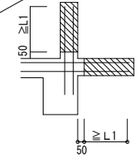
(1) 柱、梁



(2) 地中梁



(3) 床板、壁

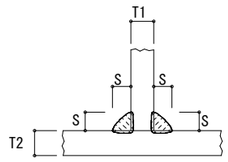


株式会社エストルクトゥーラー級建築士事務所
一級建築士登録番号 307454 号
構造設計一級建築士登録番号 7424 号 河合九州雄

事業名	北見市中央大通沿道地区第一種市街地再開発事業	コムズ・司・清和共同企業体 代表者（株）コムズワーク 一級建築士事務所登録（石）4638号	管理建築士 竹ノ内 久 一級建築士登録 第200222号	担当	検図	担当建築士	縮尺 A－1 N.S / A－2 / A－3 N.S
			意匠図担当建築士 アルファコート株式会社 舘本 和法 一級建築士事務所登録 第(石)5189号 一級建築士登録 第339203号			設計年月日 R8.02	工事名 (仮称)北見市中央大通沿道地区第一種市街地再開発事業 立体駐車場棟 図面名 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

図面番号 S － 03

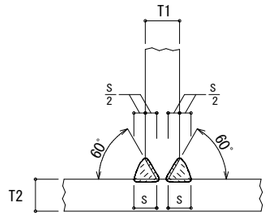
① 隅肉溶接　T≦16



●TはT1、T2の薄い方とする。

T	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
S	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12

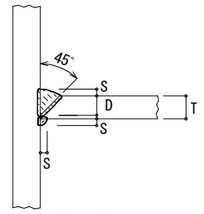
① 隅肉溶接　16<T≦40　（両面溶接）



TはT1、T2の薄い方とする。

T	19	22	25	28	32	36	40
S	11	13	15	17	19	21	24

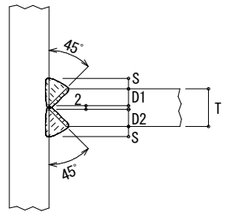
② 部分溶込溶接（片面溶接の場合）　12≦T≦40



（注）裏面の隅肉溶接は、施工出来ない場合は省略できる

T	12	16	19	22	25	28	32	36	40
D	10	11	12	13	13	14	15	15	16

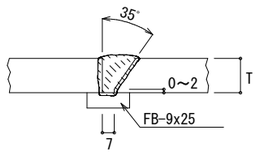
② 部分溶込溶接（両面溶接の場合）　16≦T≦40



D1＝（T−2）/2
D2＝（T−2）/2

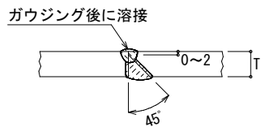
③ 完全溶込溶接（突合継手）　6<T≦40　裏当金付

組立溶接は開先内に行なわない。
（片面溶接）



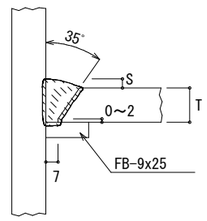
④ 完全溶込溶接（突合継手）　6<T≦19　ガウジング

組立溶接はガウジング側に行なう。



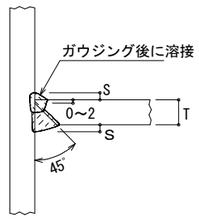
⑤ 完全溶込溶接（T継手）　6<T≦40　裏当金付

組立溶接は開先内に行なわない。
（片面溶接）



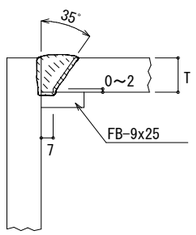
⑥ 完全溶込溶接　（T継手）　6<T≦19　ガウジング

組立溶接はガウジング側に行なう。



⑦ 完全溶込溶接（角継手）　6<T≦40　裏当金付

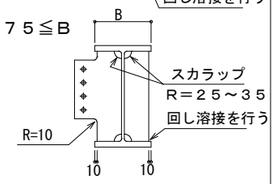
（片面溶接）



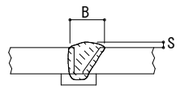
スカラップ（亜鉛メッキ鉄骨）

B≦１５０

１７５≦B

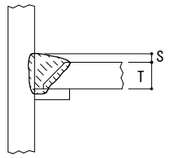


突合せ継手の余盛高さ



ビード幅	余盛高さ
B＜１５	0<S≦3
１５≦B＜２５	0<S≦4
２５≦B	0<S≦（4/25）B

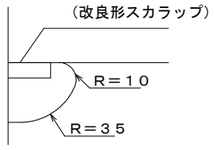
T継手の余盛高さ



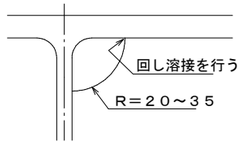
板　厚	余盛高さ
T≦40	S=T/4
40<T	S=10

ス　カ　ラ　ッ　プ

Ｈ形鋼、ＢＨ形鋼の場合

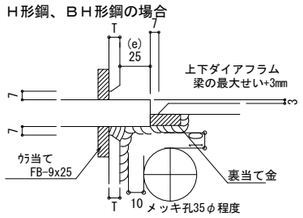


鋼板加工の場合
（ガセットプレート、リブプレートの場合）

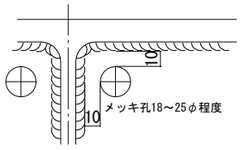


ノ　ン　ス　カ　ラ　ッ　プ

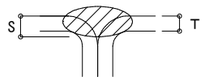
Ｈ形鋼、ＢＨ形鋼の場合



鋼板加工の場合
（ガセットプレート、リブプレートの場合）

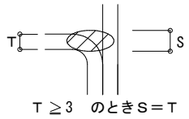


軽量形鋼Ｖ形溶接



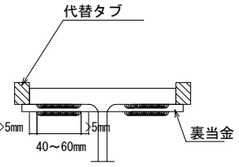
Ｔ≧3　のときＳ＝Ｔ
Ｔ＜３　のときＳ＝3

軽量形鋼レ形溶接



Ｔ≧3　のときＳ＝Ｔ
Ｔ＜３　のときＳ＝3

裏当金溶接



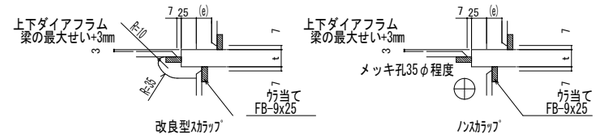
溶融亜鉛メッキ仕様の場合は不メッキを防止する為、全周溶接とする。

柱材がＢＣＲ295の場合、通しダイアフラムはSN490Cとする
柱材がＢＣＲ295の場合、内ダイアフラム及びベースプレートはSN490Bとする
（尚、設計図で材質の指示が有る場合は設計図による）
通しダイアフラム及び内ダイアフラム厚は最大梁フランジ厚の2サイズＵＰ以上とする
転落防止支柱が取り付くトッププレート厚は転落防止詳細図により決定する

梁ﾌﾗﾝｼﾞ最大厚	～13	～16	～19	～22	～25
ダイアフラム最小板厚	19	22	25	28	32

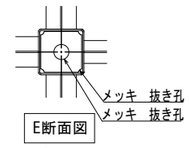
通しダイアフラムの出寸法は下記のとおりとする。
ダイアフラム出寸法=25mm　（角型鋼管板厚<28mm）
ダイアフラム出寸法=３０mm　（角型鋼管板厚≧28mm）

上下で柱サイズの外形が50mm以下で異なる場合通しダイアフラム厚は28mm以上とする



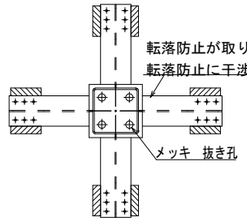
(e)=25のとき　28≧t
(e)＞25のとき　tは工事監理者及び設計者との協議による

B部　詳細図

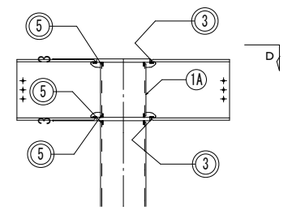


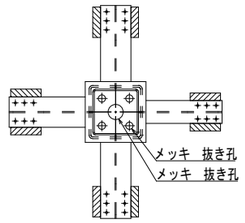
E断面図
内ダイアフラム

転落防止が取り付く場合メッキ抜き孔は
転落防止に干渉しない位置に穴開けとする

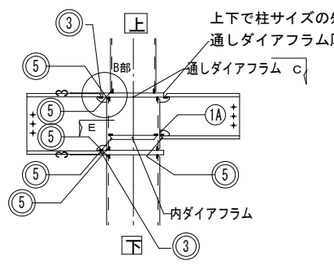


D断面図
トップダイアフラム上のみ

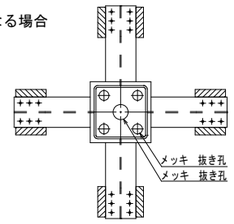




C断面図
中間ダイアフラム

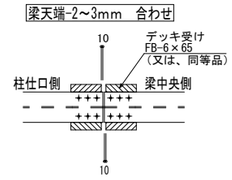


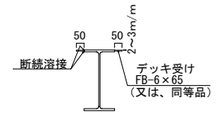
上下で柱サイズの外形が50mm以内で異なる場合
通しダイアフラム厚は28mm以上とする
通しダイアフラム　C



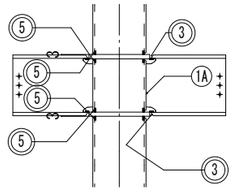
B断面図
中間ダイアフラム

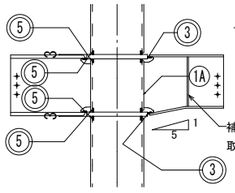
梁天端-2～3mm　合わせ





デッキ受け



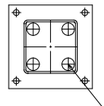


補強PLはウェブ厚以上（同材質以上）とする
取付位置はR部分を避ける位置とする

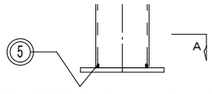
梁背が50mm以下の段差部はビルドＨとする

ハンチ部

梁背が50mm以下の段差の場合1/5勾配を原則とする
梁背が50mm以上の段差の場合は工事監理者及び
設計者との協議による



Ａ断面図　メッキ　抜き孔
ベースプレート



完全溶込溶接部の端部には、代替タブを使用する。

◯　：　ＵＴ対象箇所(T≧6)

コラム柱　メッキ孔リスト

上記「メッキ抜き孔（※）」の最大サイズは以下による
これを超える大きさが必要になる場合、監理者の承諾を得ること

柱　外柱サイズ	ベース　4ケ孔	ダイヤフラム センター及び4角	転落防止支柱部 ダイヤフラム
□-200	4-50φ	4-50φ	2-50φ×100φ
□-300	4-70φ	110φ＋ 4-50φ	2-90φ×120φ

株式会社エストルクトゥーラー級建築士事務所
一級建築士登録番号 307454 号
構造設計一級建築士登録番号 7424 号 河合九州雄

事業名	北見市中央大通沿道地区第一種市街地再開発事業	コムズ・司・清和共同企業体 代表者（株）コムズワーク　一級建築士事務所登録（石）4638号	管理建築士 竹ノ内 久 一級建築士登録 第200222号	担当	検図	担当建築士	縮尺 A-1 N.S / A-2 / A-3 N.S
			意匠図担当建築士 アルファコート株式会社 舘本 和法 一級建築士事務所登録 第(石)5189号 一級建築士登録 第339203号			設計年月日 R8.02	用紙サイズ

工事名：（仮称）北見市中央大通沿道地区第一種市街地再開発事業 立体駐車場棟
図面名：鉄骨構造標準図
図面番号：S − 04

ＱＬデッキ合成スラブ設計・施工標準

［耐火認定FP060FL-0099,0100,0101,0102,0126,FP120FL-0127用］
（耐火補強筋不要仕様）

ＪＦＥ建材
株式会社

ＱＬデッキ合成スラブの設計・施工は、(社)日本建築学会「各種合成構造設計指針・同解説」「鉄骨工事技術指針」「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5鉄筋コンクリート工事及びJASS6鉄骨工事」、(社)日本鉄鋼連盟「デッキプレート床構造設計・施工規準-2004」、ＱＬデッキ設計マニュアル・同施工マニュアルによる。

設　　計

材料／デッキプレート　［ISO 9001認証取得］

デッキプレート種類		板厚(mm)	表　面　処　理
■ＱＬ９９－５０ □ＱＬ９９－７５	端部加工 ■エンクロ有り □無し	□1.0 ■1.2 □1.6	□裏面防錆処理(一次塗装) ＱＬプライマー(P) ■亜鉛めっき　［ ■Z12　□Z27 ］ □ZAM(高耐食溶融めっき鋼板) ［ □K27　□K35 ］ □その他(高耐食性めっき鋼板)　□無し

材　　質	ＪＩＳ Ｇ ３３５２に定めるＳＤＰ１Ｔ、ＳＤＰ２、ＳＤＰ２Ｇ

材料／コンクリート

種　　類	■普通コンクリート
設計基準強度	□１８　■２１　□（　　）N／mm²
厚さ(QLデッキ山上)	□６０　□７０　■８０　□８５　□９０　□９５　□１００　□（　　）mm

材料／溶接金網・異形鉄筋

□ 溶 接 金 網	ＪＩＳ Ｇ ３５５１	□φ６－７５×７５　□φ６－１００×１００ □（　　）
■ 異 形 鉄 筋	ＪＩＳ Ｇ ３１１２、３１１７	■Ｄ１０－@２００　□（　　）

接　　合

■焼抜き栓溶接	下記焼抜き栓溶接の項による
□打込み鋲	接合箇所は特記による
□頭付きスタッド	JIS B 1198□φ１３　□φ１６　□φ１９　□φ２２　各長さ・ピッチは特記による
□そ　の　他	

耐　　火

	ＱＬ９９－５０	ＱＬ９９－７５
床１時間	□ＦＰ０６０ＦＬ－０１００ □ＦＰ０６０ＦＬ－０１０１ □ＦＰ０６０ＦＬ－０１２６	□ＦＰ０６０ＦＬ－０１０２ □ＦＰ０６０ＦＬ－００９９
床２時間		□ＦＰ１２０ＦＬ－０１２７
そ　の　他 ■指定なし	□（　　） □（　　）	□（　　） □（　　）

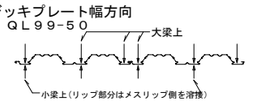
特　　記

支保工有無	その他：
■ 無　□ 有	

上欄内の採用項目に ☑ を記して下さい。

焼抜き栓溶接

デッキプレート幅方向



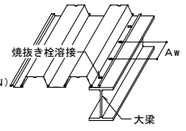
デッキプレートスパン方向

「ＱＬデッキ設計マニュアル」に基づいて決定する。

$$Aw = \frac{1.5Qa}{Q} \times 1000mm$$ かつ６００mm 以下

Aw：焼抜き栓溶接ピッチ
Q ：設計最大せん断力(N/m)
Qa：焼抜き栓溶接１個当たりの長期許容せん断力（N）

板厚	１．０	１．２	１．６
Qa（N）	4,000	4,900	7,350(SPW) 6,860(APW)



Aw ＝（　600　）mm

（注）接合に頭付きスタッドを用いる場合、焼抜き栓溶接は不要です。

耐　火　仕　様

○共通事項　支持梁：鉄骨梁、コンクリート：設計基準強度18～36 N/mm の普通コンクリート
溶接金網[JIS G 3551]又は異形鉄筋[JIS G 3112, G 3117]　寸法は下表参照
耐火補強筋：不要

【ＱＬ９９－５０】

□認定番号［ＦＰ０６０ＦＬ－０１００（床１時間耐火）］

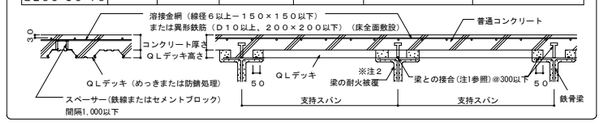
デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合(径)
ＱＬ９９－５０－１０ ＱＬ９９－５０－１２ ＱＬ９９－５０－１６	単純支持 連続支持	2,700mm 以下	80mm 以上	5,400N/m²以下	線径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接(φ18以上) 打込み鋲(φ4.5) 頭付きスタッド(φ13以上)

□認定番号［ＦＰ０６０ＦＬ－０１０１（床１時間耐火）］

デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合(径)
ＱＬ９９－５０－１０ ＱＬ９９－５０－１２ ＱＬ９９－５０－１６	単純支持 連続支持	3,000mm 以下	80mm 以上	3,500N/m²以下	線径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接(φ18以上) 打込み鋲(φ4.5) 頭付きスタッド(φ13以上)

□認定番号［ＦＰ０６０ＦＬ－０１２６（床１時間耐火）］

デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合(径)
ＱＬ９９－５０－１０ ＱＬ９９－５０－１２ ＱＬ９９－５０－１６	単純支持 連続支持	2,700mm 以下	80mm 以上	7,000N/m²以下	線径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	頭付きスタッド(φ16以上)



【ＱＬ９９－７５】

□認定番号［ＦＰ０６０ＦＬ－０１０２（床１時間耐火）］

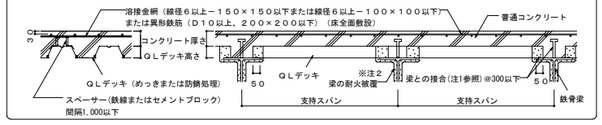
デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合(径)
ＱＬ９９－７５－１０ ＱＬ９９－７５－１２ ＱＬ９９－７５－１６	単純支持 連続支持	3,000mm 以下	80mm 以上	5,400N/m²以下	線径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接(φ18以上) 頭付きスタッド(φ13以上)

□認定番号［ ＦＰ０６０ＦＬ－００９９（床１時間耐火）］

デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合(径)
ＱＬ９９－７５－１０ ＱＬ９９－７５－１２ ＱＬ９９－７５－１６	単純支持 連続支持	3,400mm 以下	80～100mm	3,500N/m²以下	線径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	頭付きスタッド (φ16以上)

□認定番号［ ＦＰ１２０ＦＬ－０１２７（床２時間耐火）］

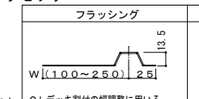
デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合(径)
ＱＬ９９－７５－１０ ＱＬ９９－７５－１２ ＱＬ９９－７５－１６	単純支持 連続支持	2,500mm 以下	90mm 以上	6,000N/m²以下	線径6mm以上-100×100mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接(φ18以上) 頭付きスタッド(φ13以上)



注1）梁との接合間隔は、焼抜き栓溶接・打込み鋲・頭付きスタッド共に、デッキ溝と直交する場合300mm以下、平行方向は600mm以下とする。
注2）梁の耐火被覆　梁に所定の耐火性能を要求される場合は、それらに応じて適切な耐火被覆を施す。（本認定仕様外）
注3）許容積載荷重は、床にかかる全荷重(仕上げ荷重も含む)から床荷重(デッキプレート+コンクリート+鉄筋)を差し引いた値を示す。

付帯条件　連続支持形式の場合、デッキプレートは２スパン以上にわたって連続的に小梁等によって、ほぼ等間隔に支持されるものとする。

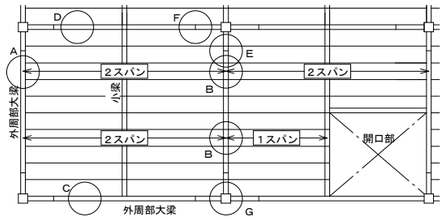
アクセサリー

フラッシング	クローサー		ハンガー金具
			
ＱＬデッキ割付の幅調整に用いる。 定R2.4m、t＝1.2mmまたは1.6mm	ＱＬデッキの小口ふさぎ用	梁の耐火被覆用面戸	天井インサート用金具 （ＱＬデッキ下溝を利用して取付）

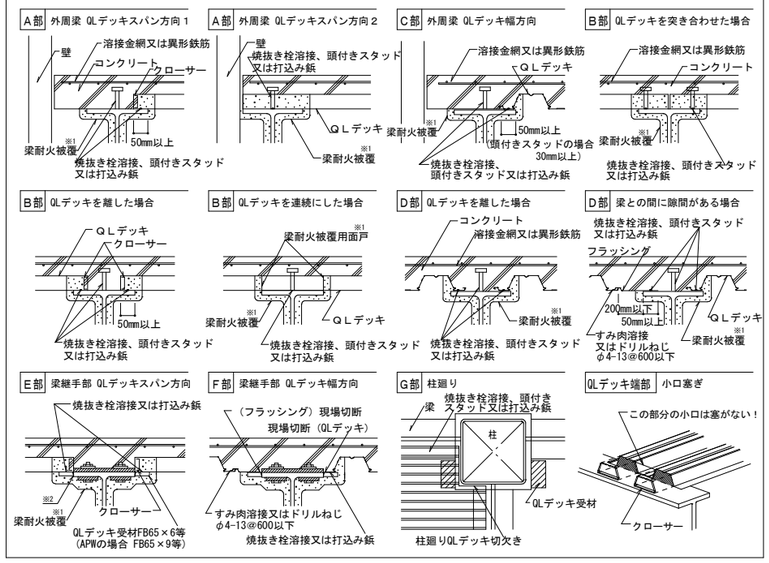
標　　準　　納　　ま　　り

支持梁：鉄骨梁

図中※１は、梁に１、２または３時間の耐火性能が要求される場合のみ適用。
※２ 溶接方法等は別途検討が必要。（合成スラブ工業会Ｑ＆Ａ参照）



Ａ：外周梁（デッキスパン方向）
Ｂ：内部梁（　　〃　　）
Ｃ：外周梁（デッキ幅方向）
Ｄ：内部梁（　　〃　　）
Ｅ：梁継手（デッキスパン方向）
Ｆ：　〃　（デッキ幅方向）
Ｇ：柱廻り

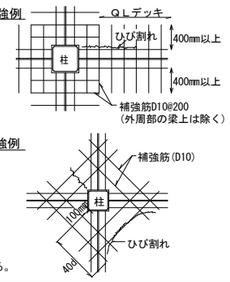


(参考)ひび割れ拡大防止のための留意事項

[1]設計上の留意点

1)小梁の剛性を大きくする。
2)ひび割れ拡大防止のため補強筋を設ける。(右図補強例参照)
3)スパンとスラブ厚さの比を小さくし、配筋量を大きくする。
（コンクリート厚さをＱＬデッキ山上から 80～90mmと厚くする。）
4)デッキプレートは各溝で梁に接合すること。
頭付きスタッド使用の場合にも、デッキプレート各溝全てをアークスポット溶接するのが望ましい。

大梁上の補強例



[2]施工上の留意点

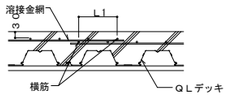
1)水セメント比を小さくする。
［例］単位水量　175リットル/m 以下
ベースコンクリートスランプ　10cm　スランプ 15cm
高性能ＡＥ減水剤
2)溶接金網の位置－かぶり厚さ30mm－を確保する。(補強筋は溶接金網より下に配筋する)
3)コンクリート打込み後１週間は載荷作業を行わない。歩行程度は可。
4)打込み後初期には散水や養生シート等で湿潤養生を行う。
直射日光が当たる屋上は、散水養生は必須。
5)打込み後４～７日間はスラブに振動や荷重を加えないようにし、充分な養生期間を設ける。

柱廻りの補強例

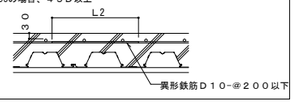
スラブの配筋

コンクリート表面よりのかぶり厚さが３０mmになるようレベル保持し、全面に配筋する。

溶接金網の重ね代Ｌ1：１メッシュと５０mm以上、且つ１５０mm以上
（線径６－１５０×１５０の場合２００mm以上、線径６－１００×１００の場合１５０mm以上）



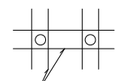
異形鉄筋の重ね代Ｌ2：JASS 5による
例）Fc18 SD295の場合、４５Ｄ以上



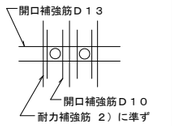
開口部補強案

１）開口がφ150mm程度の場合

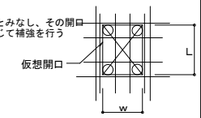
A)開口間隔≧３×開口径



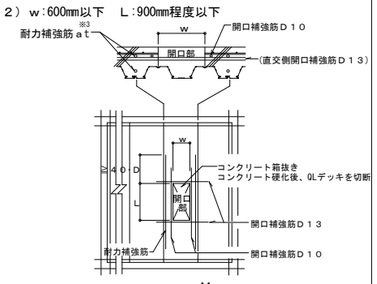
B)開口間隔＜３×開口径



C)開口が連続している場合
連続する開口の開口群(仮想開口)とみなし、その開口部の大きさにより、2)又は3)に準じて補強を行う

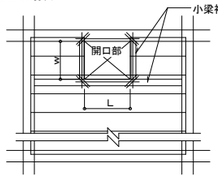


２）ｗ:600mm以下　Ｌ:900mm程度以下



※3 耐力補強筋 所要断面積 $at = \frac{M}{ft \times j}$
M：開口によって生じる隣接スラブの増加曲げモーメント

３）ｗ＞600mmの場合



小梁で補強し、開口部周辺に開口補強筋を配筋（D10以上）

施　工

施工順序

墨出し
↓
敷込み仮止め溶接
↓
QLデッキと梁との接合
１）頭付きスタッド
２）打込み鋲
３）焼抜き栓溶接
↓
ひび割れ防止筋敷込み
↓
検　査
↓
コンクリート打設

敷込み

鉄骨梁の場合
1)墨出し線に合わせて１枚目のデッキプレートを仮止め溶接した後、順次適当な枚数(５～１０枚)ごとに仮止め溶接する。
2)各大梁上にデッキプレートの溝部が乗るように敷込む。

デッキプレート幅方向のかかり代は、５０mm以上あることを確認する。
(頭付きスタッドの場合は３０mm以上)
3)デッキプレート長手方向の大梁のかかり代は、５０mm以上あることを確認する。

デッキプレートと梁との接合

１）頭付きスタッド
施工は、JASS6「鉄骨工事」による。
デッキプレートと梁とはアークスポット溶接等で接合する。

２）打込み鋲
施工は打込み鋲製造業者の施工要領による。
施工の仕様等については別途製造業者へご確認下さい。
日本ヒルティ(株)、　ＪＰＦ(株)

３）焼抜き栓溶接
国土交通省告示第３２６号(平成14年4月16日制定)及び国土交通省告示第６０６号(平成19年6月20日改正)の第２項合ハ(4)焼抜き栓溶接に基づく下記仕様による。（梁フランジの表面処理条件：黒皮または一般錆止め塗装）合成スラブ工業会主催の「焼抜き栓溶接講習会」の受講が望ましい。

焼抜き栓溶接［ＳＰＷ］―アーク手溶接―

（１）溶接機
交流アーク溶接機 AW２５０Ａ以上　エンジン溶接機 ２３０Ａ以上
（２）溶接棒
JIS Z 3211のE4316、E4916 に定める低水素系被覆アーク溶接棒で棒径４mmφのもの
（３）標準溶接条件
梁フランジ板厚：６mm以上
溶 接 電 流　：１９０～２３０Ａ(標準２１０Ａ)
（４）溶接工の資格
JIS Z 3801、JIS Z 3841 における基本級の有資格者
（５）手順・要領
右の１～４の順に行う。

	工　程	手　順　・　要　領
1	アーク発生	QLデッキを梁になじませ(隙間２mm以下)溶接棒をQLデッキに垂直にしてアークを発生させる。
2	QLデッキ焼抜き	溶接棒を若干引き上げてアークを飛ばし、径10mm弱で"の"の字を描いてQLデッキを焼抜く。
3	押し込み・溶着	溶接棒を梁上まで押し込み、焼抜きの内側をなぞるように円中央へ２～３回転しながら運棒。
4	整　形	溶着金属を整え、中央部でそっと溶接棒を引き上げる。スラグを除去して仕上がりを確認。

溶接時間の目安：電流値２１０Ａ(標準)の場合８秒程度

自動焼抜き栓溶接［Ａ．Ｐ．Ｗ］―CO_2 アークスポット溶接 ―

（１）一次側電源の必要容量：仮設電力の場合　１８ＫＶＡ以上　３相　２００Ｖ
発電機の場合　　３５ＫＶＡ以上　３相　２００Ｖ
（２）ワイヤの種類と直径　：ＹＧＷ　１１、１２　φ１．２mm
（３）標準溶接条件：下表

QLデッキ板厚	梁フランジ板厚	電流（Ａ）	電圧（Ｖ）	アークタイム（秒）
１．２mm	６～９mm未満	３００～３２０	３３～３５	３．０～４．０×１度打ち
	９mm以上	３００～３２０	３３～３５	３．０～４．０×２度打ち
１．６mm	６～９mm未満	３００～３２０	３４～３６	３．５～４．５×１度打ち
	９mm以上	３００～３２０	３４～３６	４．０～４．５×２度打ち

注１.デッキプレート　板厚１．０mm　表面条件：Ｚ１２、Ｚ２７、裏面塗装
２.CO_2ガス流量：２０ℓ/分以上

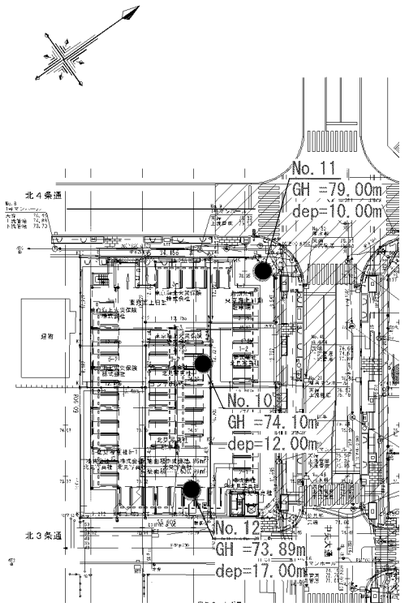
検　　査

【焼抜き栓溶接（ＳＰＷ）及び自動焼抜き栓溶接（Ａ．Ｐ．Ｗ）】
■事前検査
ＳＰＷ：適正な溶接を行うため下記1)または2)の方法で電流値をチェックする。
1) 検査試片での計測
2) 溶接棒の消費長さによる確認―　未使用の規定の溶接棒を用いて、アーク長さを約３mmに保持し、１０mm程度の円を描いて１０秒間溶接した時の溶接棒の消費長さが４５～５３mmであること。
Ａ．Ｐ．Ｗ：試し溶接を行って溶接径を確認する。
■溶接後の外観検査
1) 溶接箇所の確認　2) 焼き切れ、余盛り不足の有無
3) 標準余盛り径　SPW；18mm以上　A.P.W；25mm±3
■不良部の補修
ＳＰＷ　の場合：スラグ除去後、梁にデッキプレートを密着させて再溶接する。
不具合箇所に溶着金属を流し込む要領で補修。
Ａ．Ｐ．Wの場合：重ね溶接して補修する。
【そ　の　他】
(1)ＱＬデッキ相互の嵌合状況　(2)溶接金網の敷込み状況　(3)開口部の補強状況

特記事項：同等品も可とする。

株式会社エストルクトゥーラー一級建築士事務所
一級建築士登録番号 307454 号
構造設計一級建築士登録番号 7424 号 河合九州雄

事業名	北見市中央大通沿道地区第一種市街地再開発事業	コムズ・司・清和共同企業体 代表者（株）コムズワーク　一級建築士事務所登録（石）4638号	管理建築士　竹ノ内 久 一級建築士登録　第200222号	担当	検図	担当建築士	縮尺		工事名 (仮称)北見市中央大通沿道地区第一種市街地再開発事業 立体駐車場棟	図面番号
			意匠図担当建築士　アルファコート株式会社　舘本　和法 一級建築士事務所登録 第(石)5189号　一級建築士登録　第339203号			設計年月日 R8.02	用紙サイズ A－1	N.S	図面名 デッキ合成スラブ設計・施工標準	S － 05
							A－2			
							A－3	N.S		



調査位置図

設計GL=73.66

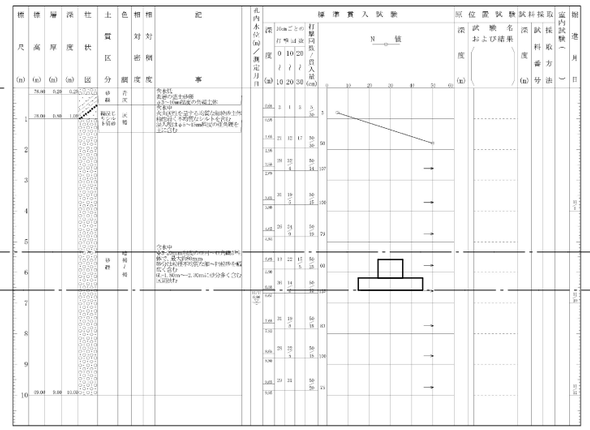
ボーリング柱状図

調査名　北見市第一種再開発事業地質調査業務

ボーリングNo

事業・工事名

ボーリング名	No.11	調査位置	北見市北４条西１丁目			シートNo 北緯	
発注機関	アルファコート株式会社			調査期間	2022年 11月 9日 ～ 2022年 11月 11日	東経	
調査業者名	株式会社ジオアクト 電話（0157-66-5200）	主任技師	安達　寛	現場代理人	野坂　信之	コア鑑定者	野坂　信之
						ボーリング責任者	安達　充太
孔口標高	79.00m	角度	90°	方向	270°（西）90°（東）180°（南）	地盤勾配	水平0° 鉛直90°
総掘進長	10.00m					使用機種 試錐機	鉱研　OP-1
						ハンマー落下用具	半自動落下装置
						エンジン	ヤンマー　NFD13-EK
						ポンプ	



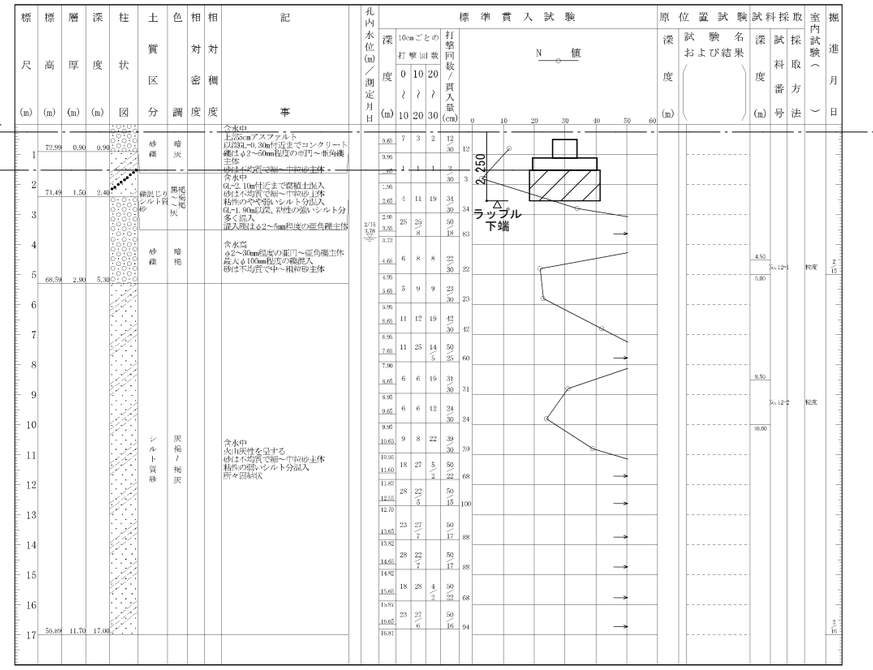
ボーリング柱状図

調査名　北見市第一種再開発事業地質調査業務

ボーリングNo

事業・工事名

ボーリング名	No.12	調査位置	北見市北３条西１丁目			北緯	
発注機関	アルファコート株式会社			調査期間	2023年 2月 15日 ～ 2023年 2月 16日	東経	
調査業者名	株式会社ジオアクト 電話（0157-66-5200）	主任技師	安達　寛	現場代理人	野坂　信之	コア鑑定者	野坂　信之
						ボーリング責任者	安達　充太
孔口標高	73.89m	角度	90°	方向	270°（西）90°（東）180°（南）	地盤勾配	水平0° 鉛直90°
総掘進長	17.00m					使用機種 試錐機	東亜利根　TDC-1G
						ハンマー落下用具	半自動落下装置
						エンジン	ヤンマー　NFD13-EK
						ポンプ	



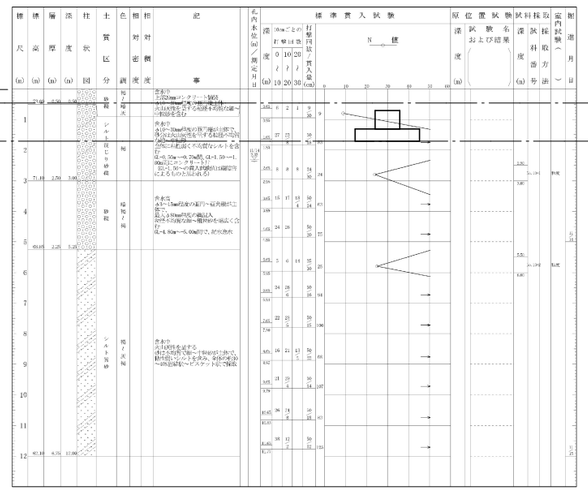
ボーリング柱状図

調査名　北見市第一種再開発事業地質調査業務

ボーリングNo

事業・工事名

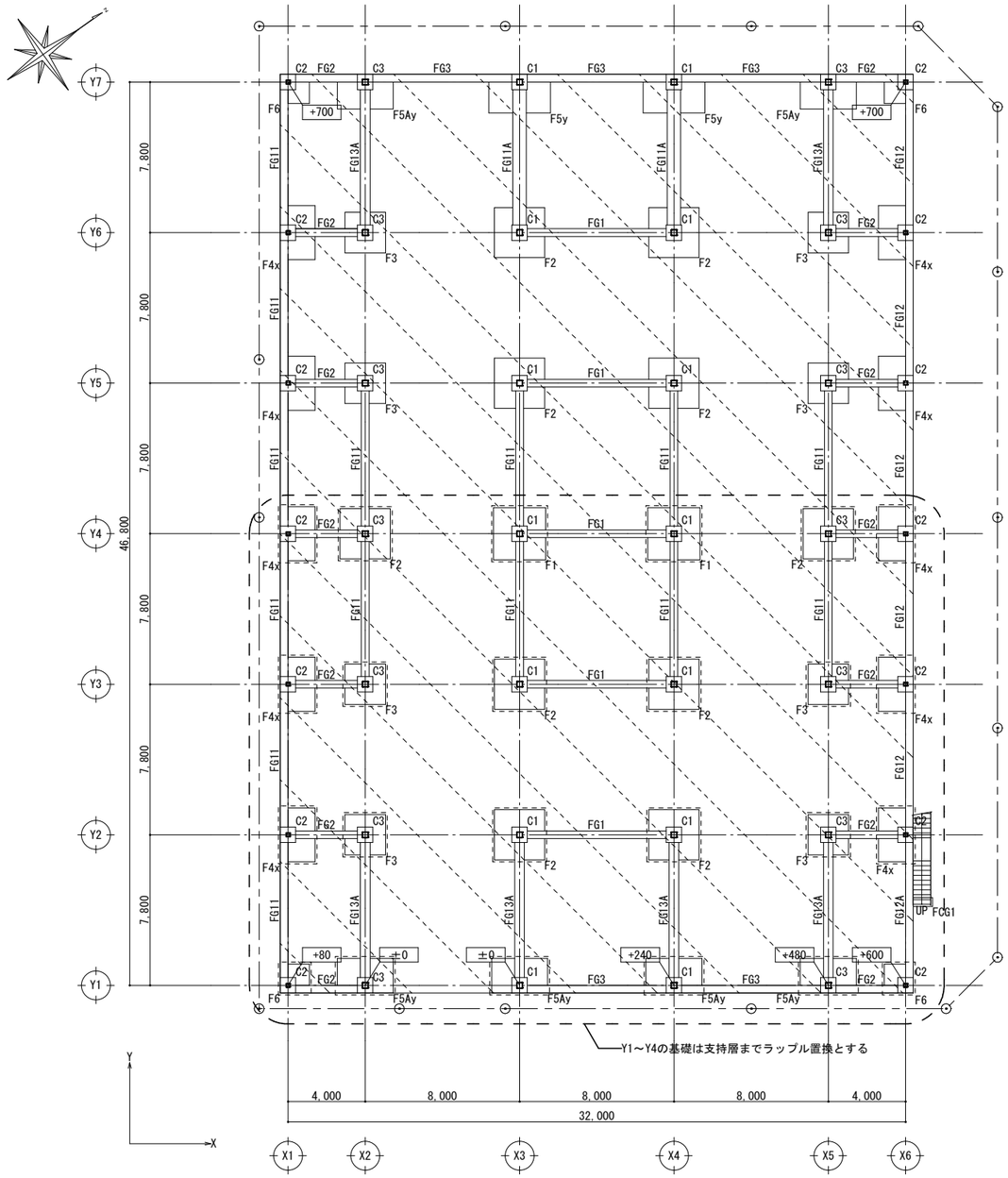
ボーリング名	No.10	調査位置	北見市北３条西１丁目			北緯	
発注機関	アルファコート株式会社			調査期間	2022年 11月 14日 ～ 2022年 11月 15日	東経	
調査業者名	株式会社ジオアクト 電話（0157-66-5200）	主任技師	安達　寛	現場代理人	野坂　信之	コア鑑定者	野坂　信之
						ボーリング責任者	安達　充太
孔口標高	74.10m	角度	90°	方向	270°（西）90°（東）180°（南）	地盤勾配	水平0° 鉛直90°
総掘進長	12.00m					使用機種 試錐機	鉱研　OP-1
						ハンマー落下用具	半自動落下装置
						エンジン	ヤンマー　NFD13-EK
						ポンプ	



株式会社エストルクトゥーラ一級建築士事務所
一級建築士登録番号 307454 号
構造設計一級建築士登録番号 7424 号 河合九州雄

事業名	北見市中央大通沿道地区第一種市街地再開発事業	コムズ・司・清和共同企業体 代表者（株）コムズワーク　一級建築士事務所登録（石）4638号	管理建築士　竹ノ内　久 一級建築士登録　第200222号	担当	検図	担当建築士	縮尺
			意匠図担当建築士　アルファコート株式会社　舘本　和法 一級建築士事務所登録 第(石)5189号　一級建築士登録 第339203号			設計年月日 R8.02	用紙サイズ A-1 N.S / A-2 / A-3 N.S

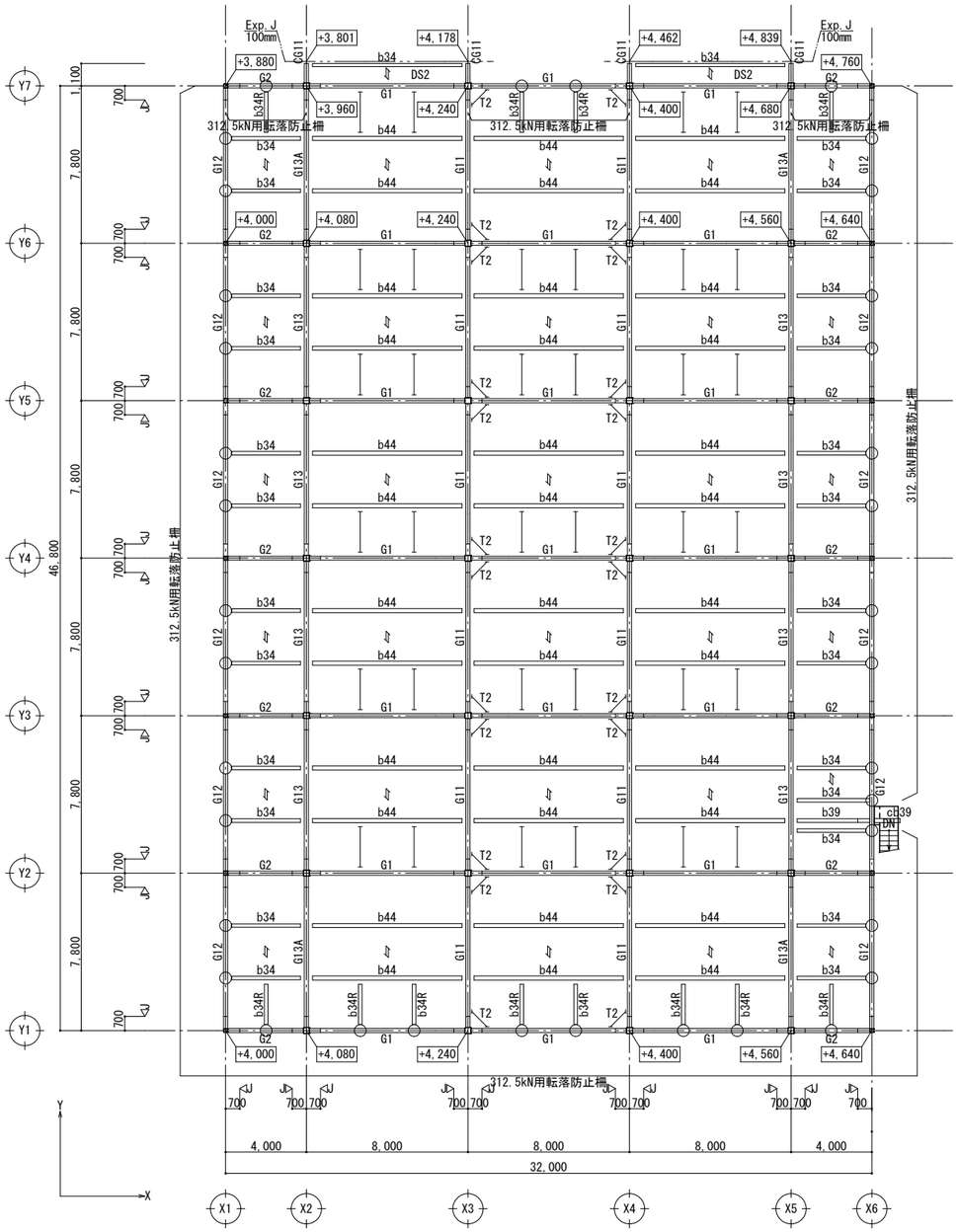
工事名	（仮称）北見市中央大通沿道地区第一種市街地再開発事業 立体駐車場棟
図面名	土質柱状図
図面番号	S － 06



基礎・1階床梁伏図　A1:1/150　A3:1/300

特記なき限り下記による

1. 設計GL=73.66
2. 基礎下端　設計GL-1,250
3. 基礎梁天端　設計GL-250
4. ﾍﾞｰｽﾌﾞﾚｰﾄ下端　設計GL-200
5. ▨ はアスファルト舗装範囲を示す
6. ▭ は設計GLからの床天端レベルを示す
7. 長期許容支持力度qaL=150kN/㎡（基礎下端）
8. ┌┈┈┐ はラップルコンクリートを示し、支持層までラップル置換とする
9. 特記なき限り直接基礎下は捨てコンとし、その下は砕石敷きとする
10. 既存杭上に新設基礎が位置する場合、基礎下端（捨てコン除く）から既存杭頭までの約300mm程度は砕石にて埋戻しとし、ラップル等の使用は不可とする。
11. 300mmの砕石については十分転圧すること
    300mm以上となる場合は300mm毎に転圧すること



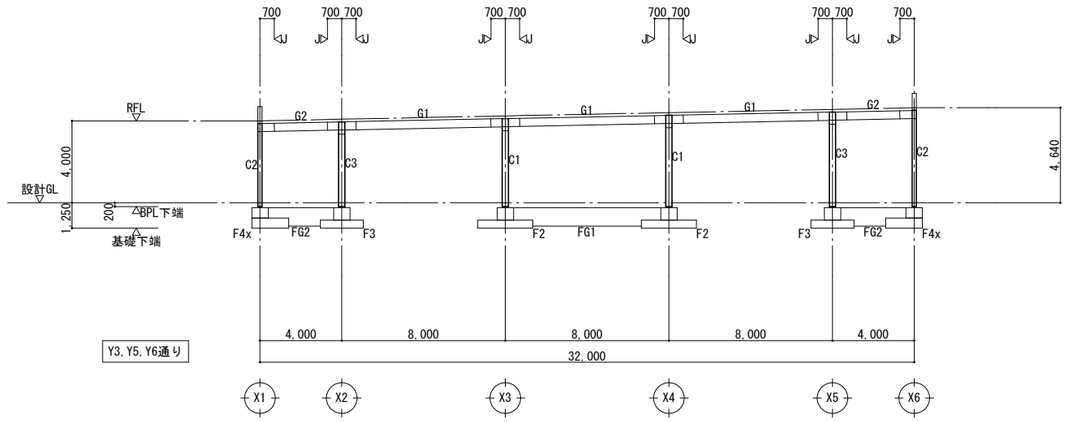
R階床梁伏図　A1:1/150　A3:1/300

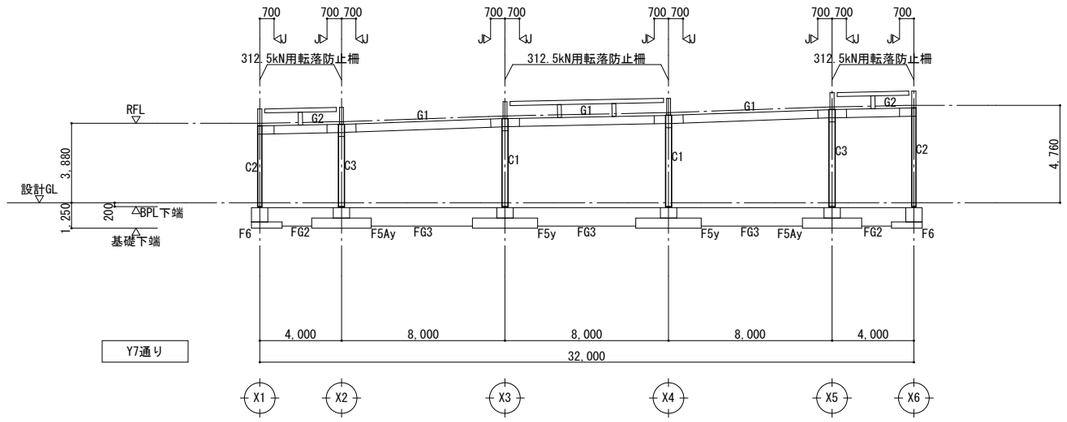
特記なき限り下記による

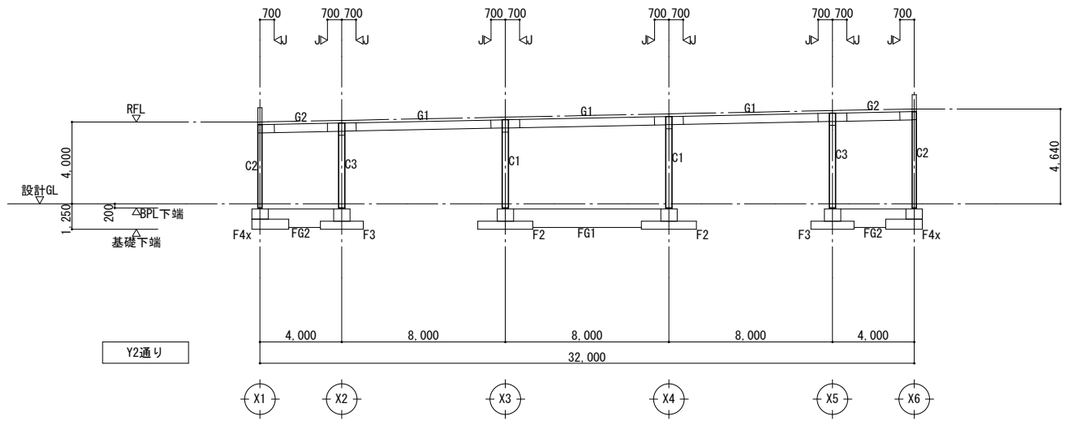
1. 鉄骨梁天端　FL(勾配ｽﾗﾌﾞ天端)-130
2. ｽﾗﾌﾞ DS1
3. ⇔ 印はﾃﾞｯｷ溝方向を示す
4. ⊕ 印部取合いは転落防止柵詳細図による
5. ⌐⌐ 印は梁継手位置を示す
6. ⊢⊣ 印はT1を示す
7. ▭ は設計GLからの床天端レベルを示す

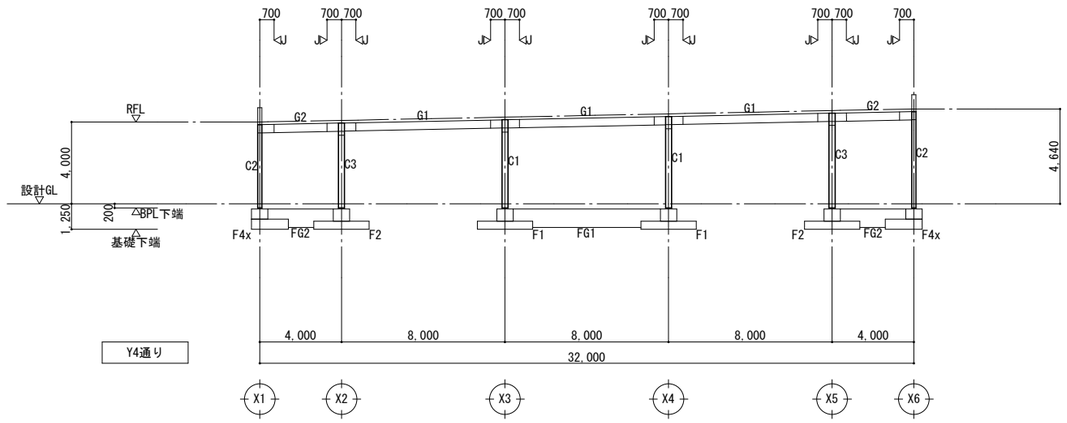
株式会社エストルクトゥーラー級建築士事務所
一級建築士登録番号 307454 号
構造設計一級建築士登録番号 7424 号 河合九州雄

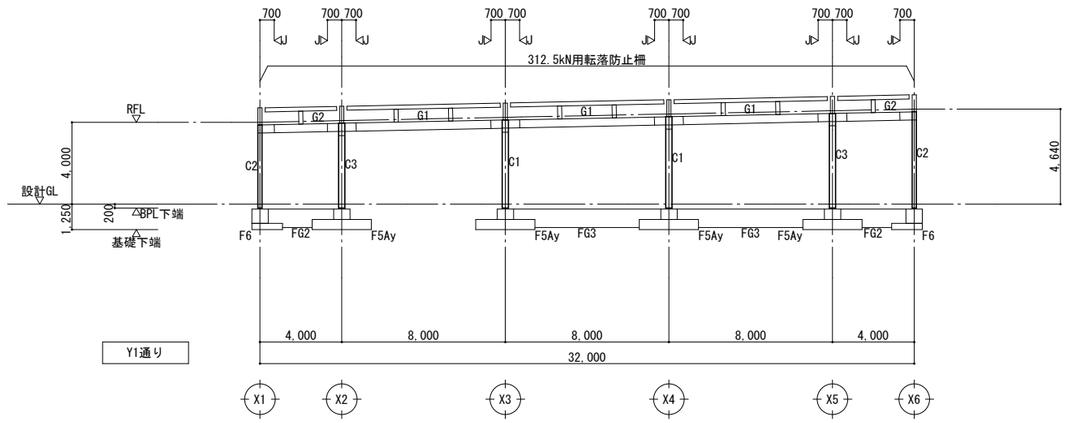
事業名	北見市中央大通沿道地区第一種市街地再開発事業	コムズ・司・清和共同企業体 代表者（株）コムズワーク　一級建築士事務所登録（石）4638号	管理建築士 竹ノ内 久 一級建築士登録 第200222号	担当	検図	担当建築士	縮尺	工事名 (仮称)北見市中央大通沿道地区第一種市街地再開発事業 立体駐車場棟	図面番号
			意匠図担当建築士 アルファコート株式会社 舘本 和法 一級建築士事務所登録 第(石)5189号 一級建築士登録 第339203号			設計年月日 R8.02	用紙サイズ A-1 1/150 A-2 A-3 1/300	図面名 基礎・1階床梁伏図,R階床梁伏図	S － 07











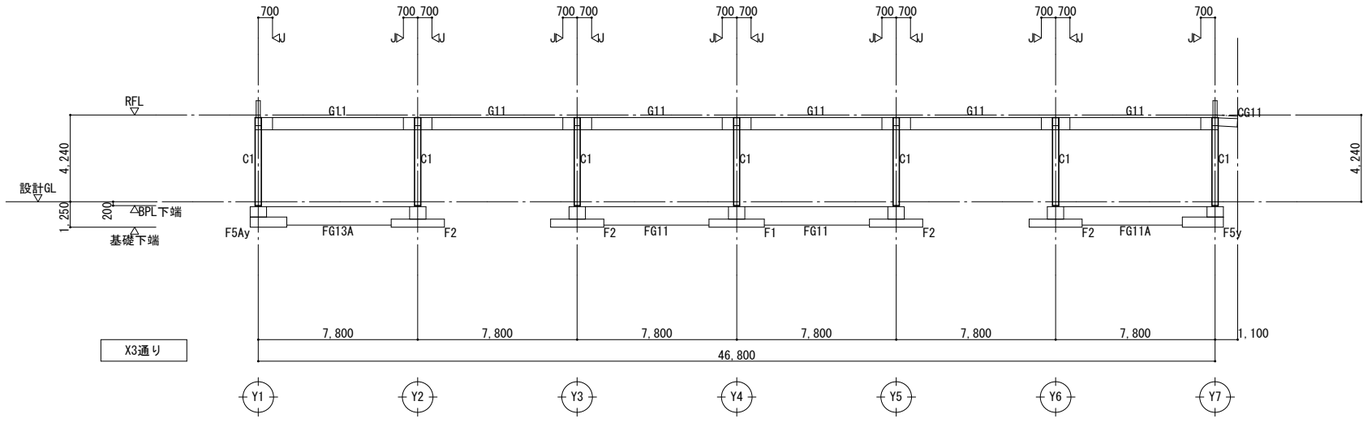
軸組図(1)	A1:1/150 A3:1/300

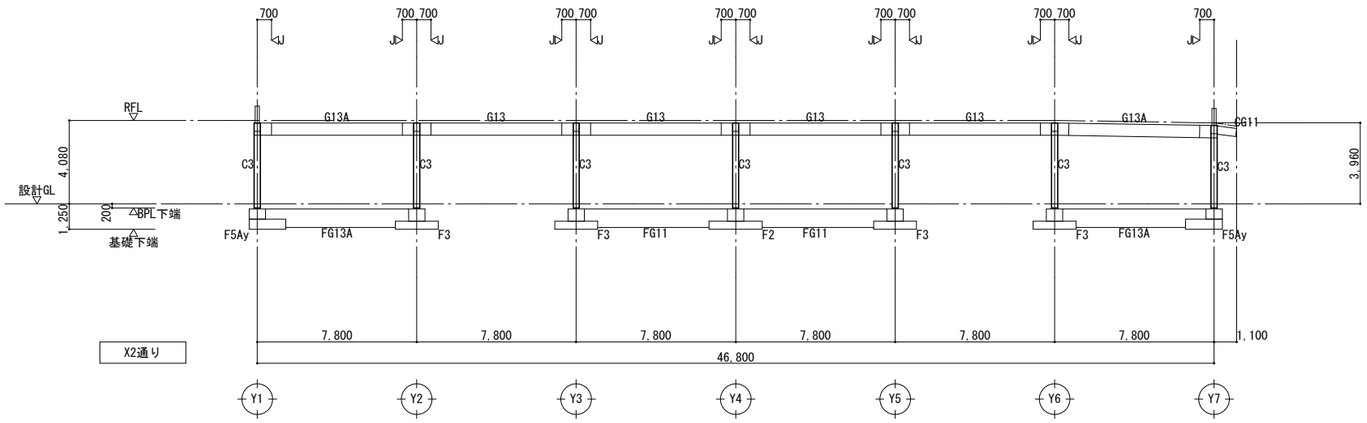
特記なき限り下記による

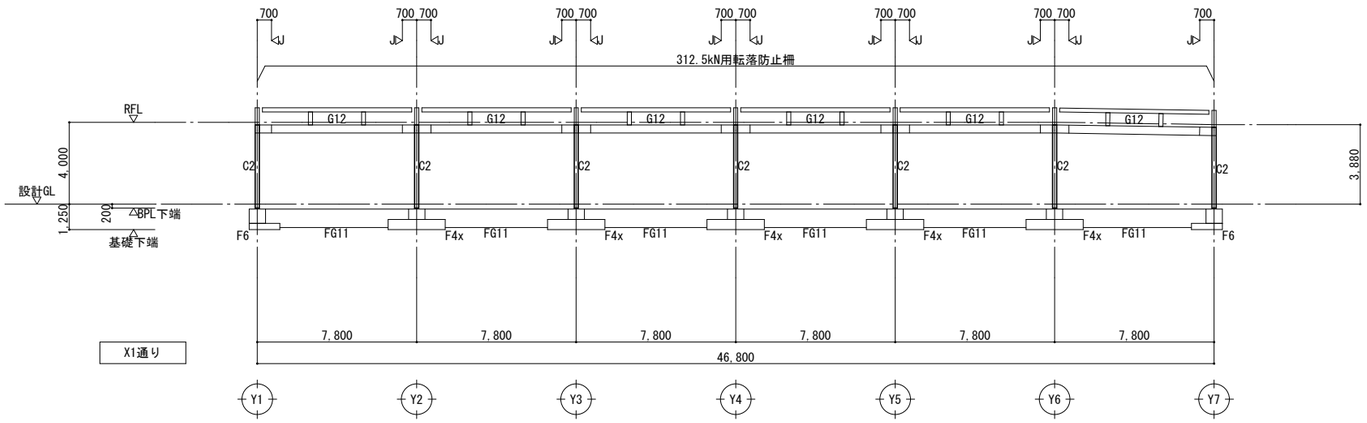
1. 設計GL=73.66
2. 基礎梁天端　設計GL-250
3. 鉄骨天端　FL(勾配ｽﾗﾌﾞ天端)-130
4. ⌇J 印は継手位置を示す

株式会社エストルクトゥーラー級建築士事務所
一級建築士登録番号 307454 号
構造設計一級建築士登録番号 7424 号 河合九州雄

事業名	北見市中央大通沿道地区第一種市街地再開発事業	コムズ・司・清和共同企業体 代表者（株）コムズワーク　一級建築士事務所登録（石）4638号	管理建築士 竹ノ内 久 一級建築士登録 第200222号	担当	検図	担当建築士	縮尺			工事名 (仮称)北見市中央大通沿道地区第一種市街地再開発事業 立体駐車場棟	図面番号
			意匠図担当建築士 アルファコート株式会社 舘本 和法 一級建築士事務所登録 第(石)5189号 一級建築士登録 第339203号			設計年月日 R8.02	用紙サイズ	A－1 A－2 A－3	1/150 1/300	図面名 軸組図(1)	S － 08







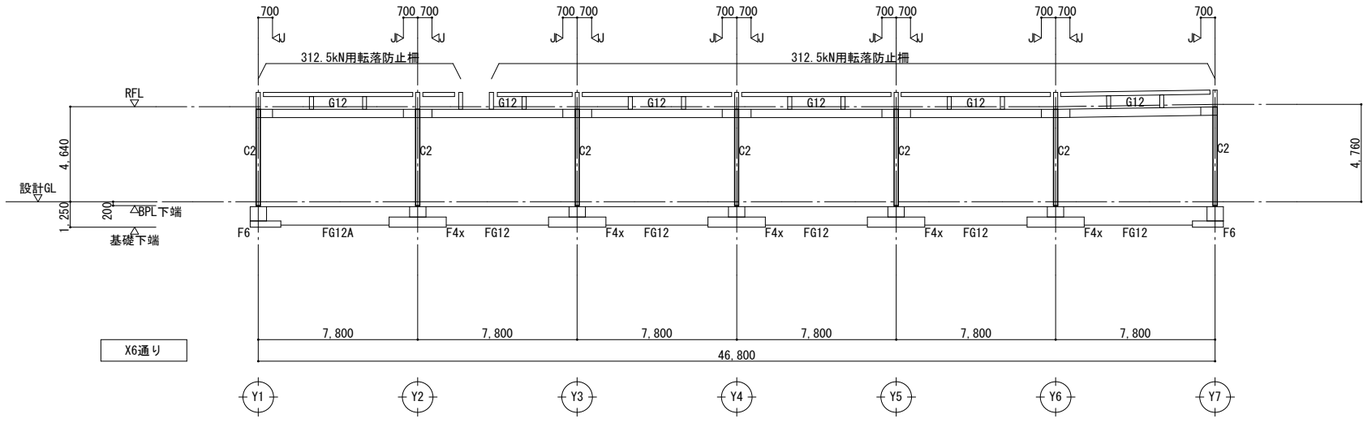
軸組図(2)	A1:1/150 A3:1/300

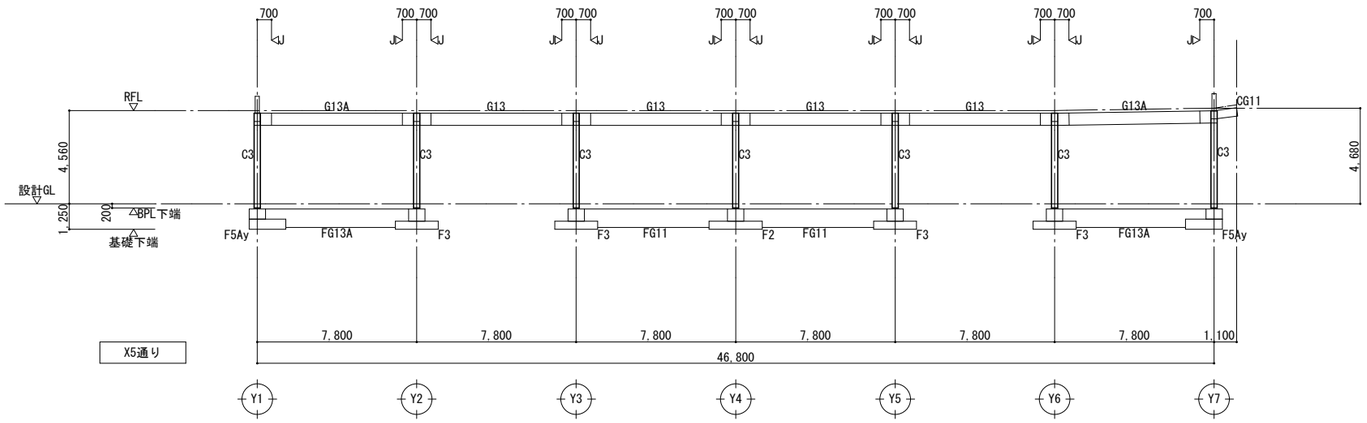
特記なき限り下記による

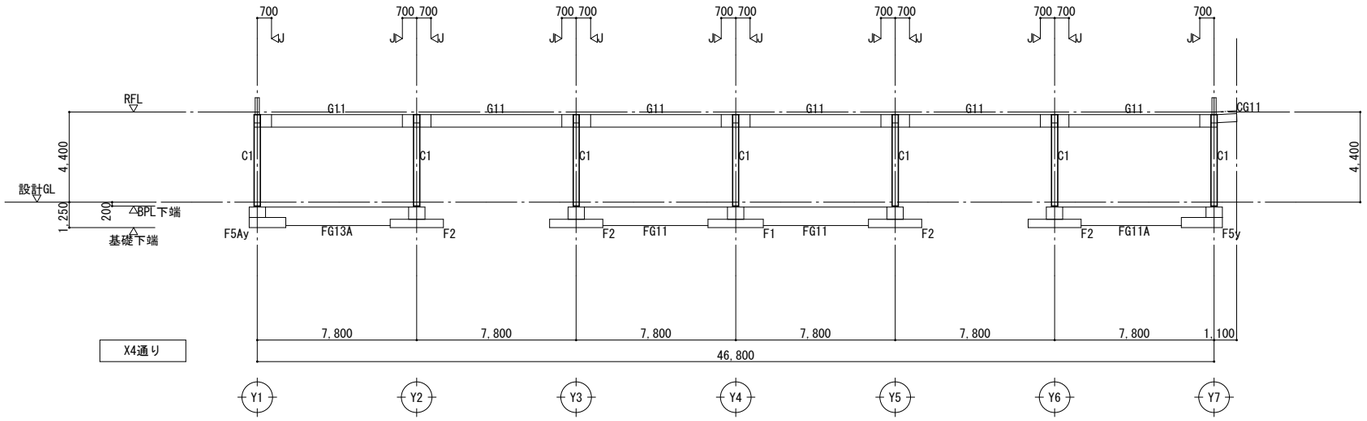
1. 設計GL=73.66
2. 基礎梁天端　設計GL-250
3. 鉄骨天端　FL(勾配ｽﾗﾌﾞ天端)-130
4. ⌇J 印は継手位置を示す

株式会社エストルクトゥーラー一級建築士事務所
一級建築士登録番号 307454 号
構造設計一級建築士登録番号 7424 号 河合九州雄

事業名	北見市中央大通沿道地区第一種市街地再開発事業	コムズ・司・清和共同企業体 代表者（株）コムズワーク　一級建築士事務所登録（石）4638号	管理建築士 竹ノ内 久 一級建築士登録 第200222号	担当	検図	担当建築士	縮尺			工事名 (仮称)北見市中央大通沿道地区第一種市街地再開発事業 立体駐車場棟	図面番号
			意匠図担当建築士 アルファコート株式会社 舘本 和法 一級建築士事務所登録 第(石)5189号 一級建築士登録 第339203号			設計年月日 R8.02	用紙サイズ	A－1 A－2 A－3	1/150 1/300	図面名 軸組図(2)	S － 09







軸組図(3)	A1:1/150 A3:1/300

特記なき限り下記による

1.設計GL=73.66

2.基礎梁天端　設計GL-250

3.鉄骨天端　FL(勾配ｽﾗﾌﾞ天端)-130

4. ⅏J 印は継手位置を示す

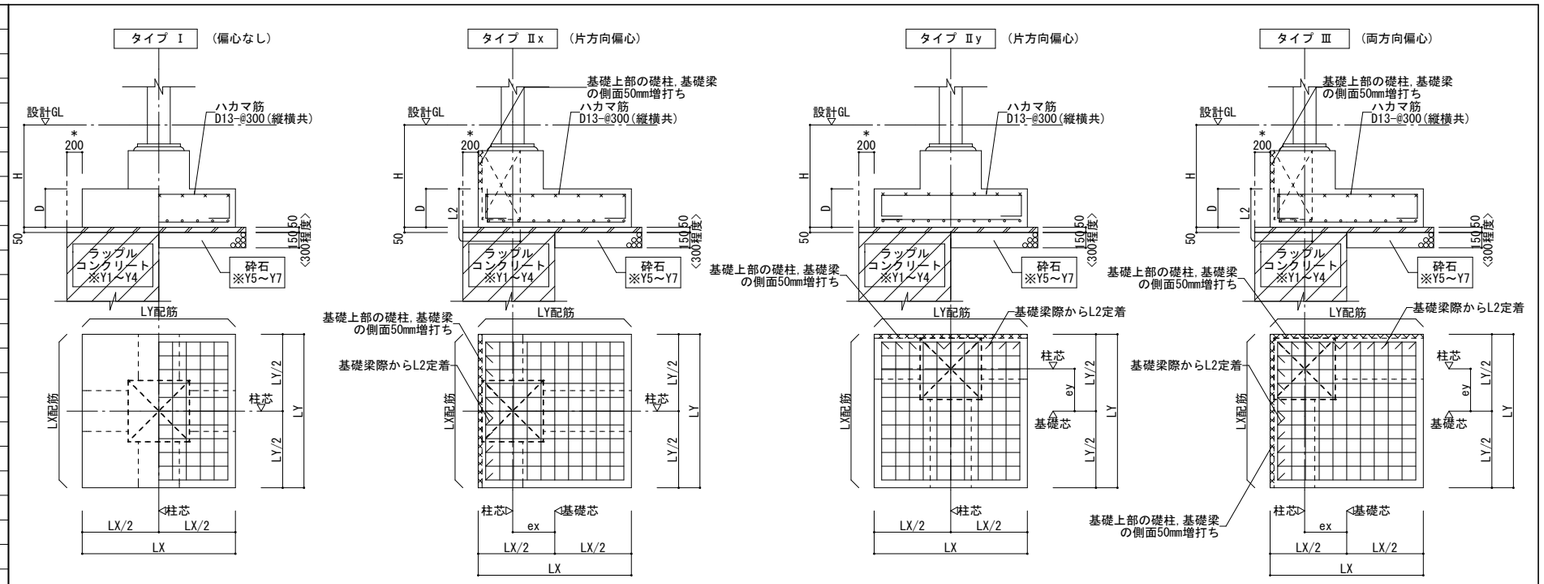
株式会社エストルクトゥーラー一級建築士事務所
一級建築士登録番号 307454 号
構造設計一級建築士登録番号 7424 号 河合九州雄

事業名	北見市中央大通沿道地区第一種市街地再開発事業	コムズ・司・清和共同企業体 代表者（株）コムズワーク　一級建築士事務所登録（石）4638号	管理建築士 竹ノ内 久 一級建築士登録 第200222号	担当	検図	担当建築士	縮尺			工事名 (仮称)北見市中央大通沿道地区第一種市街地再開発事業 立体駐車場棟	図面番号
			意匠図担当建築士 アルファコート株式会社 舘本 和法 一級建築士事務所登録 第(石)5189号 一級建築士登録 第339203号			設計年月日 R8.02	用紙サイズ	A－1 A－2 A－3	1/150 1/300	図面名 軸組図(3)	S － 10

基礎リスト

特記なき限り　1. コンクリート材質　Fc21N/mm²　2. 鉄筋材質　SD295:D10～D16　3.＜ ＞内数値は既存杭直上のフーチングで、300mm程度の砕石とする　4.300mmの砕石については十分転圧すること。300mm以上となる場合は300mm毎に転圧すること

符号	ﾀｲﾌﾟ	H	D	LX	LY	LX配筋	LY配筋	ex/ey	備考
F1	Ⅰ	1,250	400	2,700	2,700	16-D16	16-D16	—	ハカマ筋不要
F2	Ⅰ	1,250	400	2,600	2,600	14-D16	14-D16	—	ハカマ筋不要
F3	Ⅰ	1,250	400	2,100	2,100	11-D13	11-D13	—	ハカマ筋不要
F4x	Ⅱx	1,250	500	1,800	2,800	15-D16	10-D16	ex=500	
F5y	Ⅱy	1,250	500	3,200	2,000	12-D16	22-D16	ey=600	
F5Ay	Ⅱy	1,250	500	2,900	1,800	9-D16	15-D16	ey=500	
F6	Ⅲ	1,250	300	1,500	1,500	11-D13	11-D13	ex=350,ey=350	



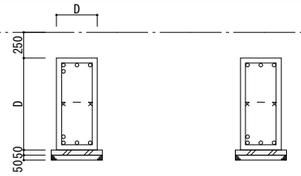
・施工上やむを得ない場合は ＊ 寸法を50mm以上とすることができる

基礎梁リスト

A1 1/ 30
A3 1/ 60

特記なき限り　1. コンクリート強度　Fc=21N/mm²　2. 鉄筋材質 D10～D16:SD295,D19～:SD345　3.巾止め筋 D10@1,000　4.＊付きの腹筋は L1重ね継手とし 柱へL2定着する

符号	FG1		FG2,FG3	FG11		FG11A		FG12・FG12A		FG13A		FCG1
位置	端部	中央	全断面	端部	中央	外端	中央・内端	端部	中央	外端	中央・内端	全断面
断面												
B x D	400 x 900		400 x 900	400 x 900		700 x 900		400 x 900		500 x 900		450 x 600
上端筋	4-D22	3-D22	5-D22	4-D22	3-D22	9-D22	6-D22	4-D22	3-D22	6-D22	4-D22	3-D16
下端筋	4-D22	4-D22	3-D22	4-D22	3-D22	6-D22	6-D22	3-D22	3-D22	4-D22	4-D22	3-D16
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D13-@200		□-D13-@200	□-D13-@200		□-D13-@150		□-D13-@200(□-D13-@100)		□-D13-@200		□-D13-@200
腹筋	2-D13		2-D13	2-D13		2-D13		2-D13(*6-D16)		2-D13		2-D13
備考								( )内はFG12Aを示す				

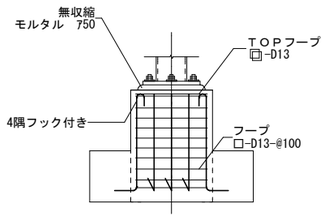


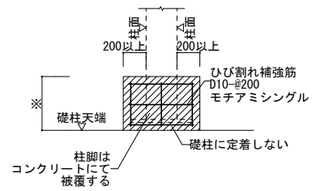
礎柱リスト

A1:1/30
A3:1/60

特記なき限り　1. コンクリート材質　Fc21N/mm²　2. 鉄筋材質　SD295:D10～D16,SD345:D19～

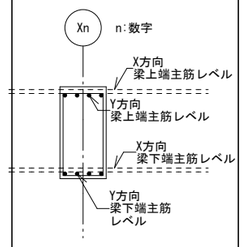
符号	C1,C2,C3		礎柱配筋要領	鉄骨柱ｶﾊﾞｰｺﾝｸﾘｰﾄ配筋要領図
断面	Dx, Dy			
Dx × Dy	800x800			
主筋	16-D22			
フープ	□-D13-@100			
備考				





※カバーコンクリート天端レベルは1FLまでとする。

基礎梁　主筋レベル位置図

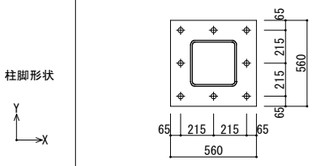
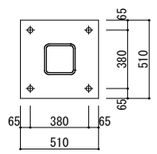
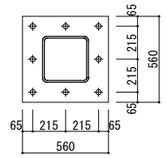


株式会社エストルクトゥーラー級建築士事務所
一級建築士登録番号 307454 号
構造設計一級建築士登録番号 7424 号 河合九州雄

事業名	北見市中央大通沿道地区第一種市街地再開発事業	コムズ・司・清和共同企業体 代表者（株）コムズワーク　一級建築士事務所登録（石）4638号	管理建築士 竹ノ内 久 一級建築士登録 第200222号 意匠図担当建築士 アルファコート株式会社 舘本 和法 一級建築士事務所登録 第(石)5189号 一級建築士登録 第339203号	担当 / 検図 / 担当建築士 / 設計年月日 R8.02	縮尺 / 用紙サイズ A-1 1/30 / A-2 / A-3 1/60	工事名 (仮称)北見市中央大通沿道地区第一種市街地再開発事業 立体駐車場棟 図面名 基礎リスト,基礎梁リスト,礎柱リスト	図面番号 S － 11

柱リスト	A1 1:20 A3 1:40

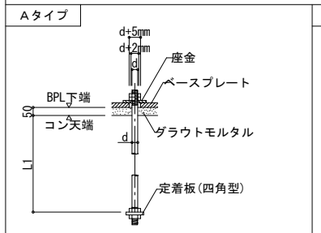
特記なき限り　1. 溶融亜鉛メッキ仕様とする

符　号		C1			C2			C3		
柱サイズ	1 階	□-300x300x12		BCR295	□-200x200x12		BCR295	□-300x300x12		BCR295
柱脚形状										
BPL		BPL-32x560x560		SN490C	BPL-32x510x510		SN490C	BPL-32x560x560		SN490C
A.BOLT		Aタイプ	8-M24	L=480	Aタイプ	4-M24	L=480	Aタイプ	8-M24	L=480
				SNR490B (ABR490)			SNR490B (ABR490)			SNR490B (ABR490)
備　考										

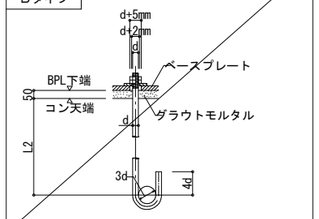
アンカーボルト仕様

アンカーボルトタイプ

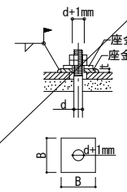
Aタイプ



Bタイプ

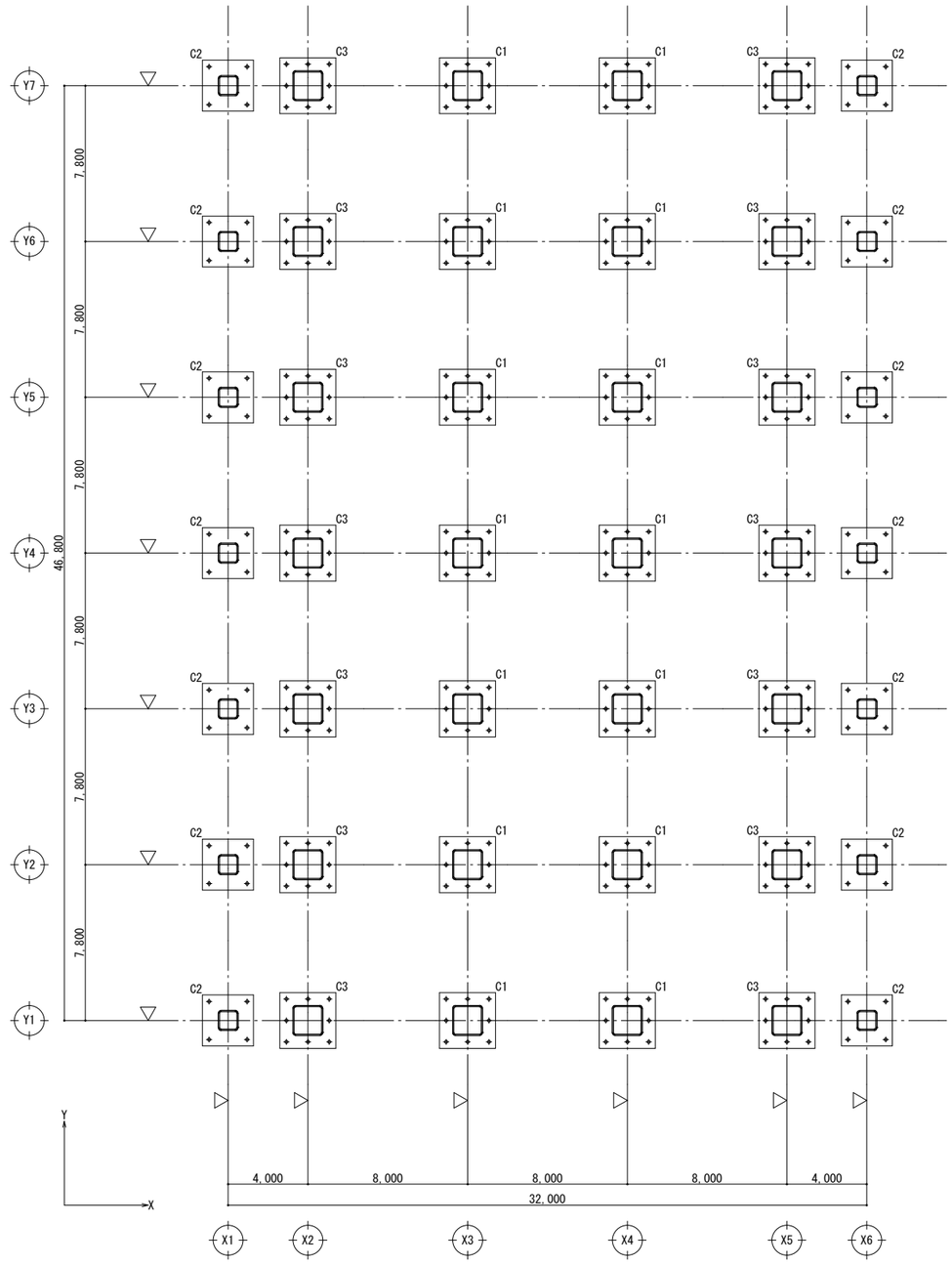


ベースプレートに溶接する座金PL



定着長・定着板

使用部材	呼び径	L1	L2	定着板	備　考
	M16	320	500	PL- 9x 50x 50	
	M20	400	600	PL-12x 60x 60	
	M22	440	660	PL-12x 70x 70	
●	M24	480	720	PL-16x 75x 75	
	M27	540	—	PL-16x 90x 90	
	M30	600	—	PL-16x100x100	
	M33	660	—	PL-19x100x100	
	M36	720	—	PL-19x110x110	
	M39	780	—	PL-22x120x120	
	M42	840	—	PL-22x120x120	



アンカープラン図	A1 1:30,150 A3 1:60,300

特記なき限り下記による

1. ﾍﾞｰｽﾌﾟﾚｰﾄ下端　設計GL-200

2. ▽ は、柱芯を示す

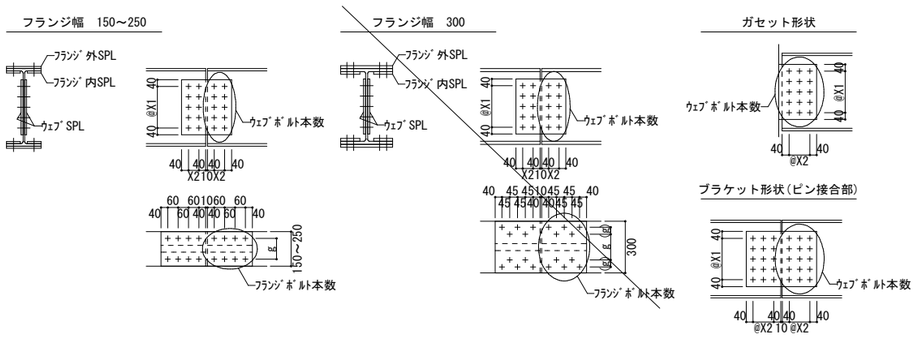
株式会社エストルクトゥーラー級建築士事務所
一級建築士登録番号 307454 号
構造設計一級建築士登録番号 7424 号 河合九州雄

事業名	北見市中央大通沿道地区第一種市街地再開発事業	コムズ・司・清和共同企業体 代表者（株）コムズワーク　一級建築士事務所登録（石）4638号	管理建築士 竹ノ内 久 一級建築士登録 第200222号	担 当	検 図	担当建築士	縮 尺			工 事 名 （仮称）北見市中央大通沿道地区第一種市街地再開発事業 立体駐車場棟	図面番号
			意匠図担当建築士 アルファコート株式会社 舘本 和法 一級建築士事務所登録 第(石)5189号 一級建築士登録 第339203号			設計年月日 R8.02	用紙サイズ	A－1	1/20,30,150	図 面 名 柱リスト	S － 12
								A－2			
								A－3	1/40,60,300		

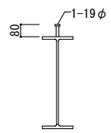
梁リスト

特記なき限り　1. 高力ﾎﾞﾙﾄ:F8T　2. SPL,GPLは母材と同材質とする　3. SN490B は SM490A へ代替可　4. 溶融亜鉛メッキ仕様とする

符号	階	位置	部材	材質	フランジ				ウェブ				STUD	備考
					SPL(外)	SPL(内)	HTB	g	SPL/GPL	HTB	X1	X2		
G1	全	全	H-396x199x 7x11	SS400	2SPL-9x200x410	4SPL-9x80x410	6-M20	120	2SPL-9x260x290	6-M20	90	60	—	
G2	全	全	H-396x199x 7x11	SS400	2SPL-9x200x410	4SPL-9x80x410	6-M20	120	2SPL-9x260x290	6-M20	90	60	—	
G11	全	全	H-600x200x11x17	SN490B	2SPL-12x200x530	4SPL-12x80x530	8-M22	120	2SPL-12x440x290	10-M22	90	60	—	
G12	全	全	H-396x199x 7x11	SS400	2SPL-9x200x410	4SPL-9x80x410	6-M20	120	2SPL-9x260x290	6-M20	90	60	—	
G13	全	全	H-596x199x10x15	SS400	2SPL-12x200x410	4SPL-12x80x410	6-M22	120	2SPL-9x440x170	7-M22	60	—	—	
G13A	全	全	H-600x200x11x17	SS400	2SPL-12x200x410	4SPL-12x80x410	6-M22	120	2SPL-9x440x170	7-M22	60	—	—	
CG11	全	全	H-396x199x 7x11	SS400	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
cb39	全	全	H-396x199x 7x11	SS400	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
b34	全	全	H-346x174x 6x 9	SS400	—	—	—	—	GPL-9	4-M20	60	—	—	転落防止支柱側継手は、転落防止詳細図参照
b34R	全	全	H-346x174x 6x 9	SS400	—	—	—	—	GPL-9	4-M20	60	—	—	転落防止支柱側継手は、転落防止詳細図参照
b44	全	全	H-446x199x 8x12	SS400	—	—	—	—	GPL-9	8-M20	90	60	—	
b39	全	全	H-396x199x 7x11	SS400	2SPL-9x200x410	4SPL-9x80x410	6-M20	120	2SPL-9x260x290	6-M20	90	60	—	
					—	—	—	—	GPL-9	4-M20	60	—	—	
T1	全	全	[-100x 50x5x7.5	SS400	—	—	—	—	GPL-9	2-M20	—	60	—	横補剛材接合部詳細図参照
T2	全	全	[-100x 50x5x7.5	SS400	—	—	—	—	GPL-9	2-M20	—	150	—	横補剛材接合部詳細図参照
ササラ	全	全	FB-12x300	SS400	—	—	—	—	—	—	—	—	—	詳細は意匠図による



スタッドボルト要領図

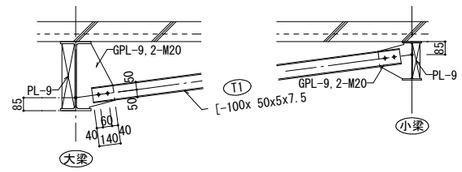


横補剛材接合部詳細図

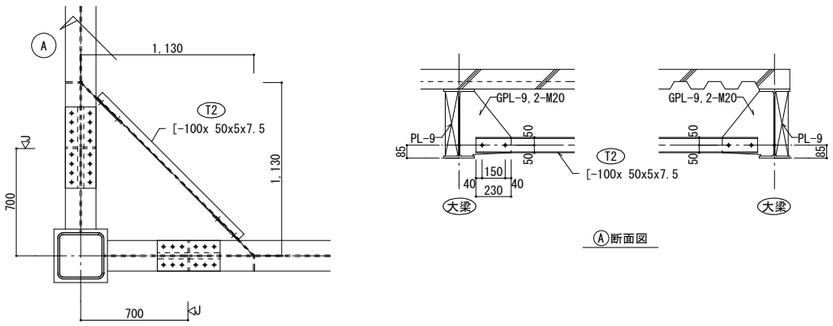
A1 1:20
A3 1:40

特記なき限り　1. 高力ﾎﾞﾙﾄ:F8T　2. SPL,GPLは母材と同材質とする　3. 溶融亜鉛メッキ仕様とする

T1



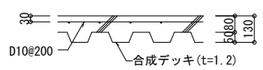
T2



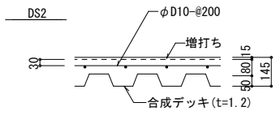
デッキスラブリスト

A1 1:15
A3 1:30

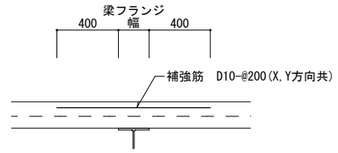
DS1



DS2



大梁上スラブ補強詳細図



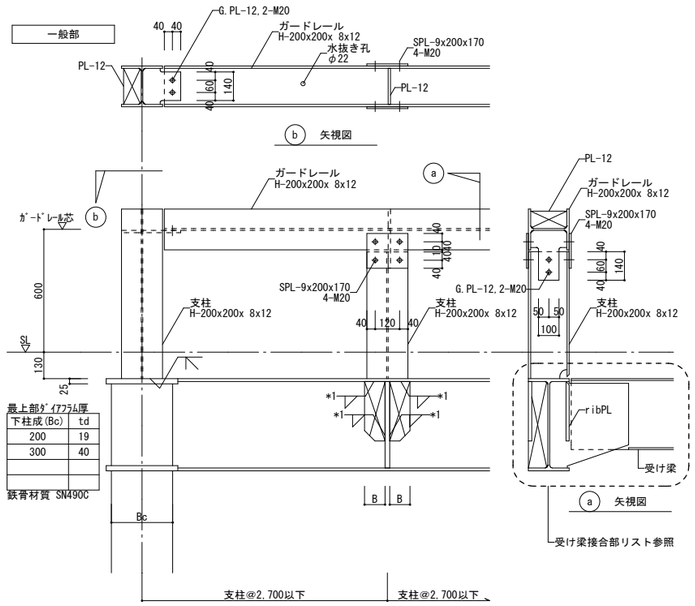
※外周は除く

株式会社エストルクトゥーラー級建築士事務所
一級建築士登録番号 307454 号
構造設計一級建築士登録番号 7424 号 河合九州雄

事業名	北見市中央大通沿道地区第一種市街地再開発事業	コムズ・司・清和共同企業体 代表者（株）コムズワーク　一級建築士事務所登録（石）4638号	管理建築士 竹ノ内 久 一級建築士登録 第200222号	担当	検図	担当建築士	縮尺 A-1 1/15,20 A-2 A-3 1/30,40	工事名 (仮称)北見市中央大通沿道地区第一種市街地再開発事業 立体駐車場棟	図面番号
			意匠図担当建築士 アルファコート株式会社 舘本 和法 一級建築士事務所登録 第(石)5189号 一級建築士登録 第339203号			設計年月日 R8.02	用紙サイズ	図面名 梁リスト	S － 13

転落防止柵詳細図(312.5kN用)　A1:1/ 15　A3:1/ 30

特記なき限り　1. 鉄骨材質 SS400　2.H.T.B F8T
3.*1は隅肉溶接又は部分溶け込み溶接とする

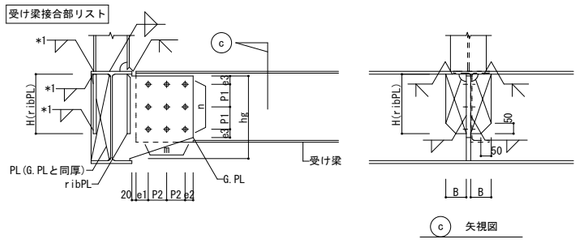


最上部ｶﾞｲﾌﾟﾗﾑ厚

下柱成(Bc)	td
200	19
300	40

鉄骨材質 SN490C

受け梁接合部リスト



特記なき限り　1. 鉄骨材質 SS400　2.H.T.B F8T　3.ribPLの材質は支柱と同等とする　[mm]

符号	部材サイズ	ボルト	m	n	t(G.PL)	P1	P2	e1	e2	e3	hg	ribPL(2×t×B×H)	位　置
b34	H-346x174x 6x 9	12-M20	4	3	G.PL-22	70	110	60	40	40	290	ribPL-16x150x320	一般部
b34R	H-346x174x 6x 9	12-M20	4	3	G.PL-22	70	110	60	40	40	290	ribPL-16x150x320	一般部

他端接合は、梁リスト参照

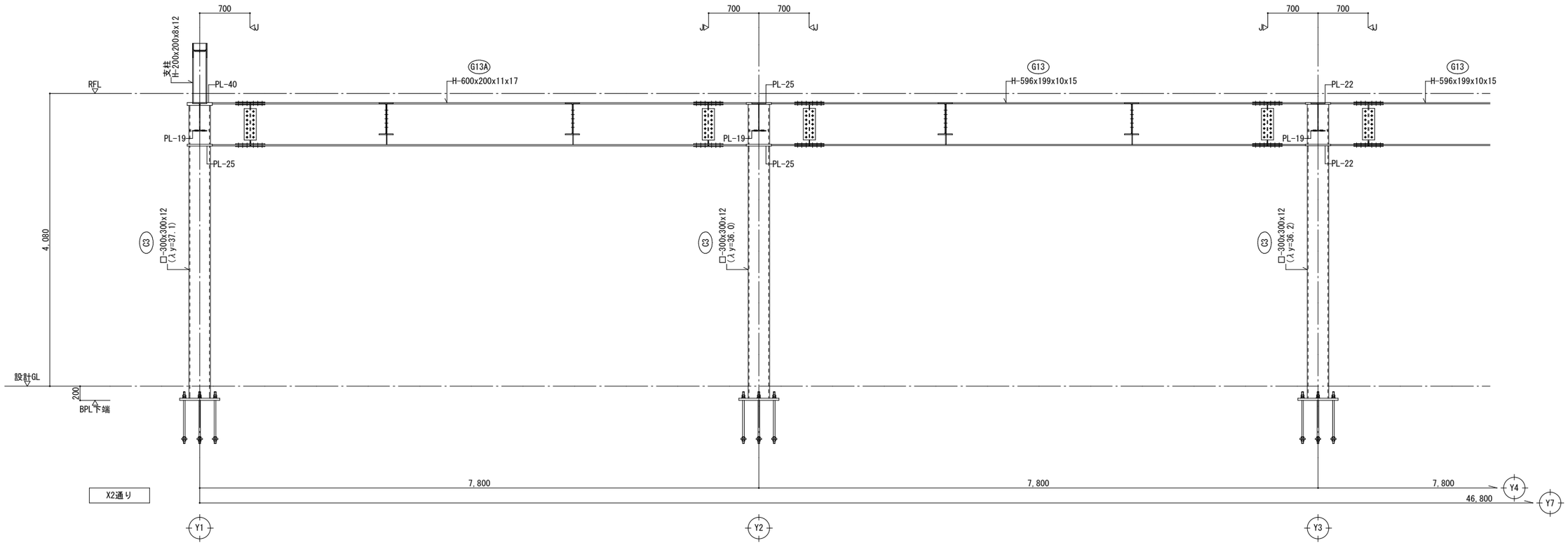
株式会社エストルクトゥーラ一級建築士事務所
一級建築士登録番号 307454 号
構造設計一級建築士登録番号 7424 号 河合九州雄

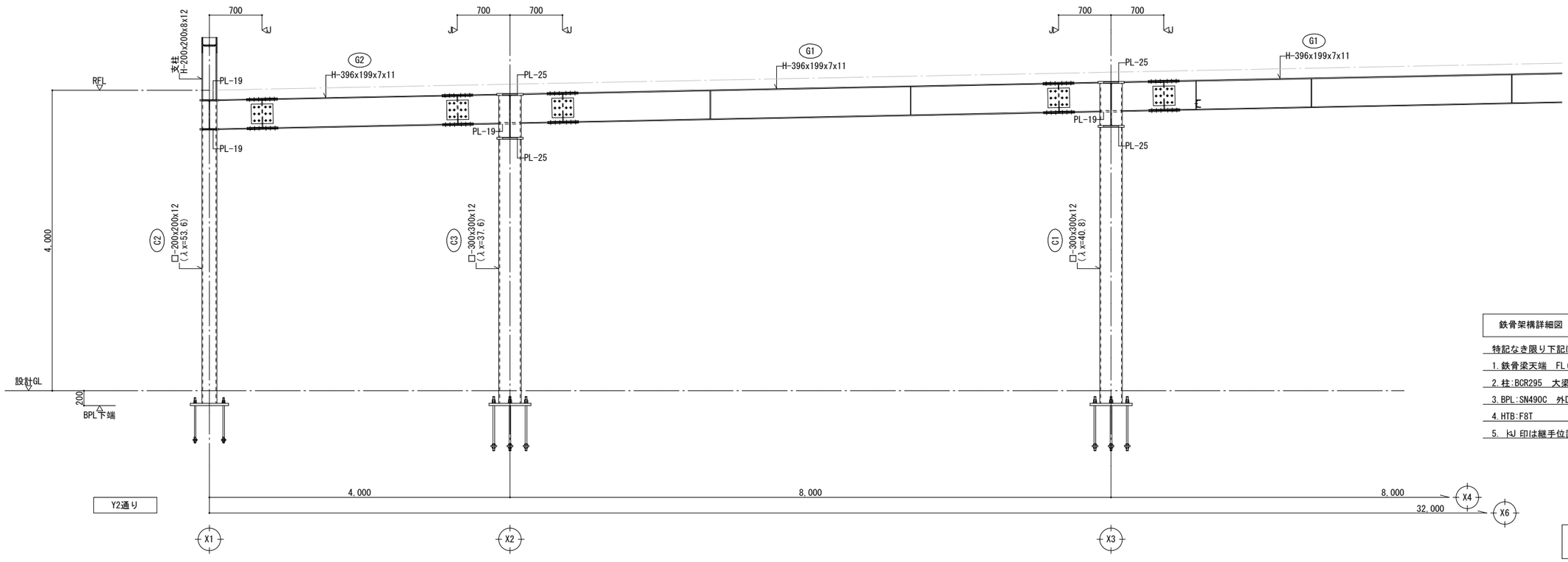
事業名	北見市中央大通沿道地区第一種市街地再開発事業	コムズ・司・清和共同企業体 代表者（株）コムズワーク　一級建築士事務所登録（石）4638号	管理建築士 竹ノ内 久 一級建築士登録 第200222号	担当	検図	担当建築士	縮尺 用紙サイズ A-1 1/15 / A-2 / A-3 1/30
			意匠図担当建築士 アルファコート株式会社 舘本 和法 一級建築士事務所登録 第(石)5189号 一級建築士登録 第339203号			設計年月日 R8.02	

工事名 (仮称)北見市中央大通沿道地区第一種市街地再開発事業 立体駐車場棟

図面番号 S － 14

図面名 部分詳細図





鉄骨架構詳細図	A1:1/ 30 A3:1/ 60

特記なき限り下記による

1. 鉄骨梁天端　FL(勾配ｽﾗﾌﾞ天端)-130
2. 柱:BCR295　大梁・小梁・PL:SS400
3. BPL:SN490C　外DPL:SN490C　内DPL:SN490B
4. HTB:F8T
5. ⌊J 印は継手位置を示す

株式会社エストルクトゥーラー級建築士事務所
一級建築士登録番号 307454 号
構造設計一級建築士登録番号 7424 号 河合九州雄

事業名	北見市中央大通沿道地区第一種市街地再開発事業	コムズ・司・清和共同企業体 代表者（株）コムズワーク　一級建築士事務所登録（石）4638号	管理建築士 竹ノ内 久 一級建築士登録 第200222号	担当	検図	担当建築士	縮尺			工事名 (仮称)北見市中央大通沿道地区第一種市街地再開発事業 立体駐車場棟	図面番号
			意匠図担当建築士 アルファコート株式会社 舘本 和法 一級建築士事務所登録 第(石)5189号 一級建築士登録 第339203号			設計年月日 R8.02	用紙サイズ	A－1 A－2 A－3	1/30 1/60	図面名 鉄骨架構詳細図	S － 15